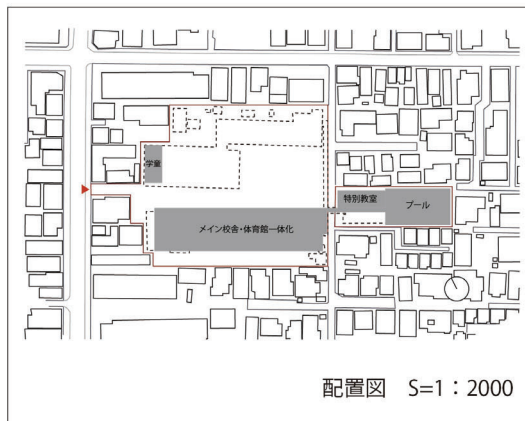


6 配置案の検討について

南側配置 A 案



①広い校庭

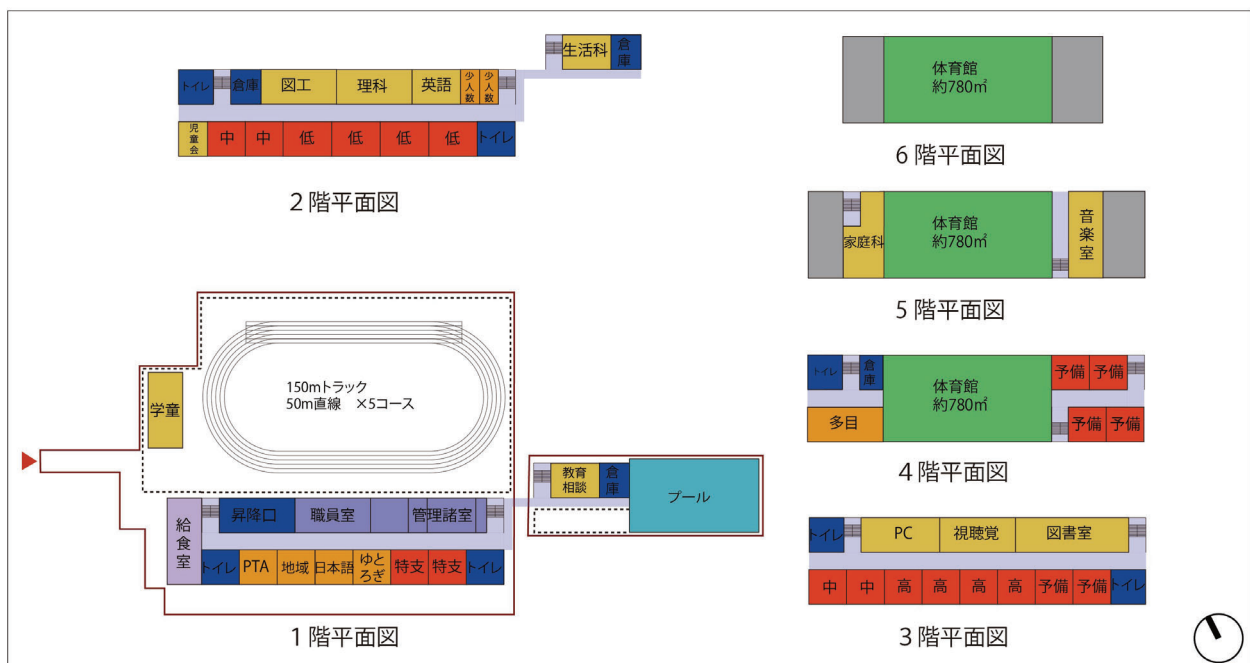
校舎がコンパクトになっており、校庭が広くとれる。

②仮設校舎が必要ない計画

建替え時期に、宮田小学校に通う児童への影響は少ない。

③体育館のアクセスが悪い

地域開放や防災活動で使用する体育館が4階にあり、アクセスが悪い



成長を実感する児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの位置関係	オープンスペースの位置			
	4	○	△	×			
身近に自然を感じる快適な学校	小計	グラウンドの日当たり ★	普通教室への日照・眺望				
	-1	×	△				
衛生的で使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線 (普通教室と特別教室の位置関係等)	管理のしやすさ (普通教室と管理諸室の位置関係等)			
	5	△	△	○			
保護者と地域と歩む温かい学校	小計	防災拠点としての使いやすさ ★	地域開放のしやすさ	管理諸室からの視認性 (校門やグラウンド)			
	-2	×	×	△			
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ	プール(アクセスとコスト)	法規制の評価(日影規制)	
	11			○	△	○	

主に児童へ影響のあるもの

主に教職員へ影響のあるもの

主に地域へ影響のあるもの

■ 主に児童へ影響のあるもの
■ 主に教職員へ影響のあるもの
■ 主に地域へ影響のあるもの

(★ ○…4点 △…2点 ×…-2点) (無印 ○…2点 △…1点 ×…-1点)

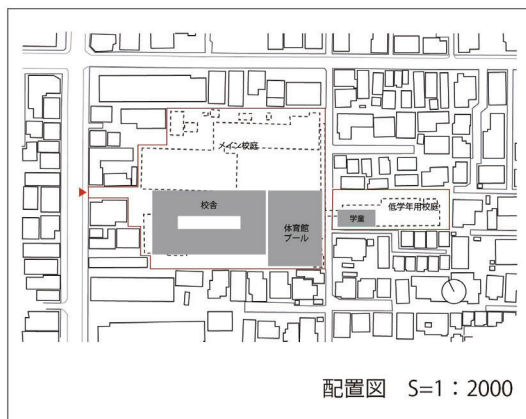
●コンセプト毎の評価

成長を実感する児童を育む学校	身近に自然を感じる快適な学校	衛生的で使いやすい学校	保護者と地域と歩む温かい学校	その他	合計
4	-1	5	-2	11	17

●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
10	5	-1	3	17

南側配置 B 案



①回遊性のある動線

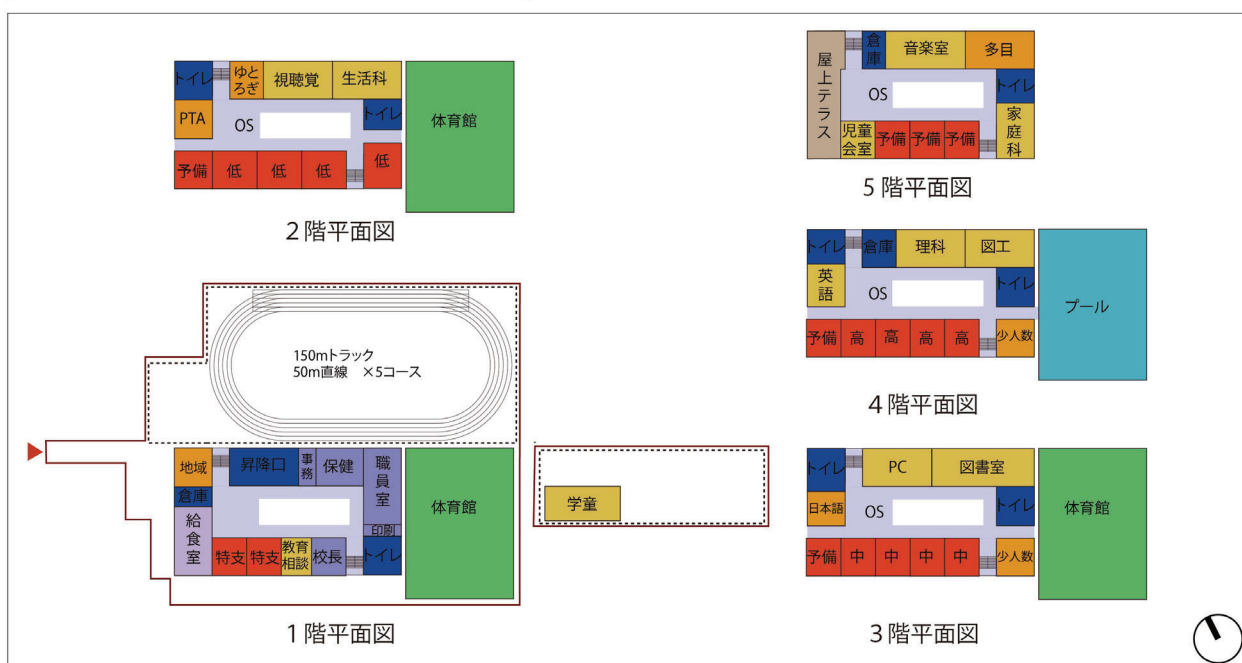
校舎がコの字型であり、動線は比較的短い、視線が抜けるため、どのような活動がされているかわかりやすい。

②2種類の校庭

メイン校庭と別に飛地を校庭としている。学年別や遊び方別に利用が可能。

③仮設校舎が必要ない計画

建替え時期に、宮田小学校に通う児童への影響は少ない。



成長を実感する 児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの 位置関係	オープンスペースの位置		
	5	△	△	○		
身近に自然を感じる 快適な学校	小計	グラウンドの日当たり ★	普通教室への日照・眺望			
	-1	×	△			
衛生的で 使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線 （普通教室と特別教室の 位置関係等）	管理のしやすさ （普通教室と管理諸室の 位置関係等）		
	8	○	○	○		
保護者と地域と歩む 温かい学校	小計	防災拠点としての 使いやすさ ★	地域開放のしやすさ	管理諸室からの視認性 （校門やグラウンド）		
	7	○	○	△		
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ	プール（アクセスとコスト）	法規制の評価（日影規制）
	11	○	○	○	△	○

主に児童へ影響のあるもの

主に教職員へ影響のあるもの

主に地域へ影響のあるもの

■ 主に児童へ影響のあるもの
■ 主に教職員へ影響のあるもの
■ 主に地域へ影響のあるもの

(★ ○…4点 △…2点 ×…1点) (無印 ○…2点 △…1点 ×…1点)

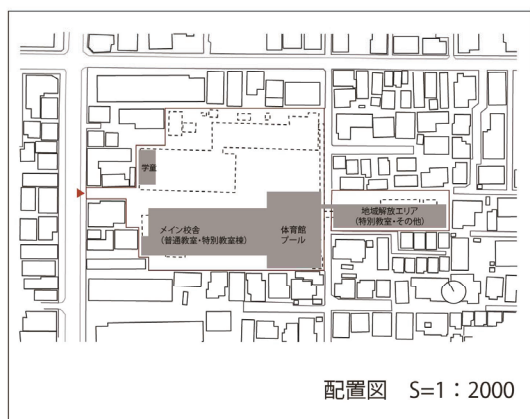
●コンセプト毎の評価

成長を実感する児童を育む学校	身近に自然を感じる快適な学校	衛生的で使いやすい学校	保護者と地域と歩む温かい学校	その他	合計
5	-1	8	7	11	30

●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
14	5	8	3	30

南側配置 C 案



①地域開放がしやすい

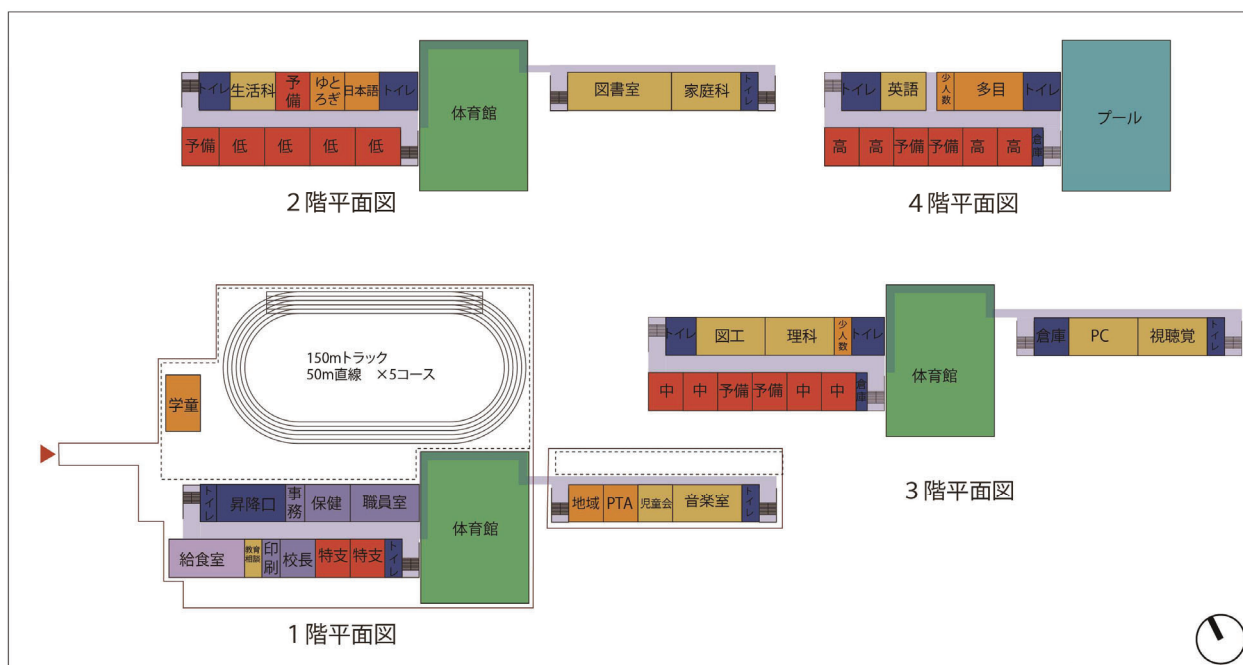
特別教室を飛地に配置しており、体育館も独立で設けているため、利用者の明確なゾーン分けがされている

②広い校庭

校舎がコンパクトに設計されているため、校庭が広い。

③特別教室へのアクセスが悪い

飛地に特別教室があるため、学校生活上の動線が長い



成長を実感する児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの位置関係	オープンスペースの位置
	2	○	×	×
身近に自然を感じる快適な学校	小計	グラウンドの日当たり ★	普通教室への日照・眺望	
	-1	×	△	
衛生的で使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線（普通教室と特別教室の位置関係等）	管理のしやすさ（普通教室と管理諸室の位置関係等）
	2	○	×	×
保護者と地域と歩む温かい学校	小計	防災拠点としての使いやすさ ★	地域開放のしやすさ	管理諸室からの視認性（校門やグラウンド）
	7	○	○	△
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ
	10	○	○	○
				プール（アクセスとコスト）
				△
				法規制の評価（日影規制）
				△

（★ ○…4点 △…2点 ×…1点）（無印 ○…2点 △…1点 ×…1点）

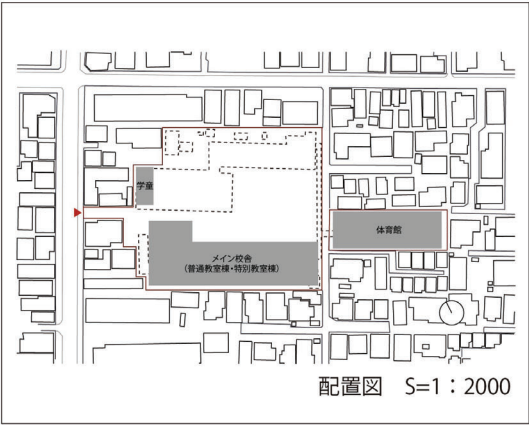
●コンセプト毎の評価

成長を実感する児童を育む学校	身近に自然を感じる快適な学校	衛生的で使いやすい学校	保護者と地域と歩む暖かい学校	その他	合計
2	-1	2	7	10	20

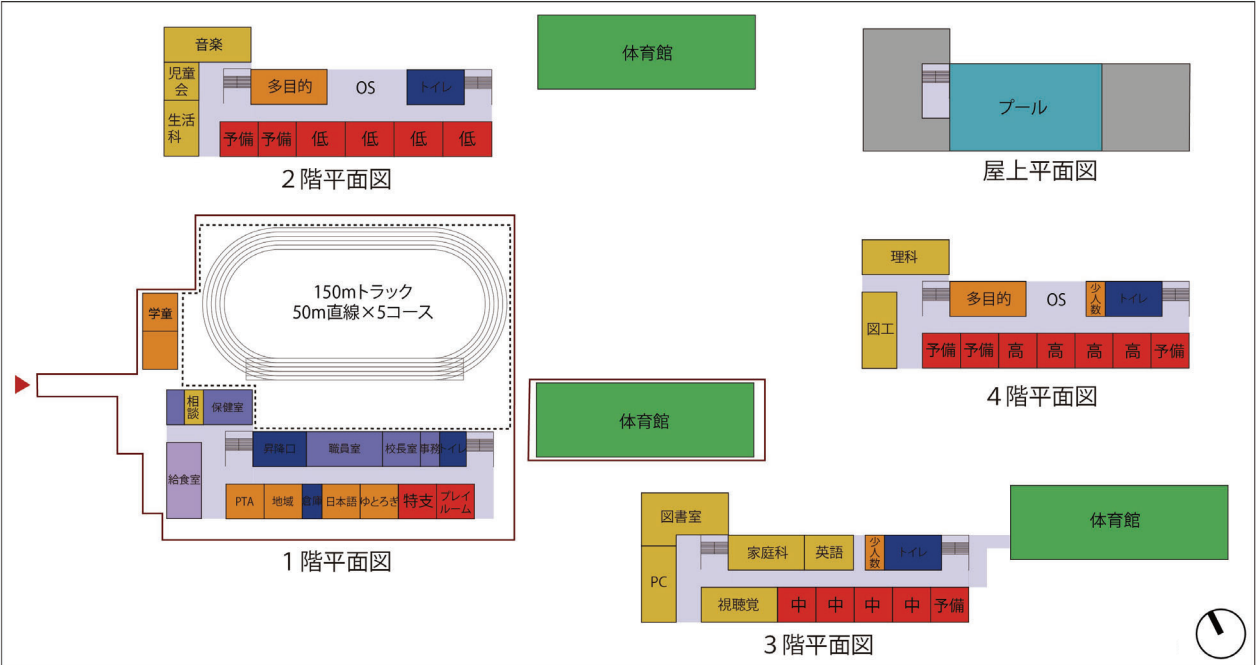
●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
8	2	8	2	20

南側配置 D 案



- ①良好な学習環境
各階にオープンスペースが確保されており、
多様な学習環境が整えられる。
- ②校舎中心部のメディアスペース
図書室、PC 室がどの学年からもアクセスし
やすい。他の特別教室もまとまって配置され
ている。
- ③広い校庭
飛び地に体育館を設置しているため、校庭が
広い。しかし、体育館の使い勝手は悪い。



成長を実感する児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの位置関係	オープンスペースの位置			
	7	○	△	○			
身近に自然を感じる快適な学校	小計	グラウンドの日当たり ★	普通教室への日照・眺望				
	-1	×	△				
衛生的で使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線 (普通教室と特別教室の位置関係等)	管理のしやすさ (普通教室と管理諸室の位置関係等)			
	2	×	○	○			
保護者と地域と歩む温かい学校	小計	防災拠点としての使いやすさ ★	地域開放のしやすさ	管理諸室からの視認性 (校門やグラウンド)			
	6	○	△	△			
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ	プール(アクセスとコスト)	法規制の評価(日影規制)	
	11	○	○	○	△	○	

主に児童へ影響のあるもの

主に教職員へ影響のあるもの

主に地域へ影響のあるもの

(★ ○…4点 △…2点 ×…-2点) (無印 ○…2点 △…1点 ×…-1点)

- 主に児童へ影響のあるもの
- 主に教職員へ影響のあるもの
- 主に地域へ影響のあるもの

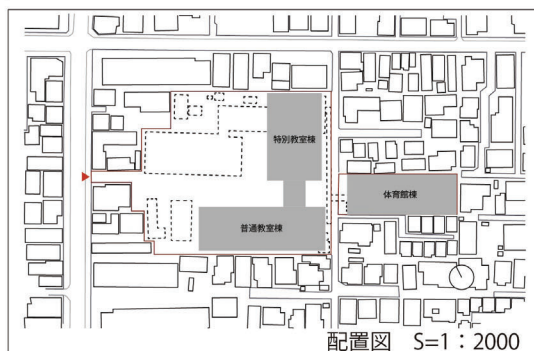
●コンセプト毎の評価

成長を実感する 児童を育む学校	身近に自然を感じる 快適な学校	衛生的で 使いやすい学校	保護者と地域と歩む 温かい学校	その他	合計
7	-1	2	6	11	25

●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
10	5	7	3	25

東側配置 A 案



①地域開放がしやすい

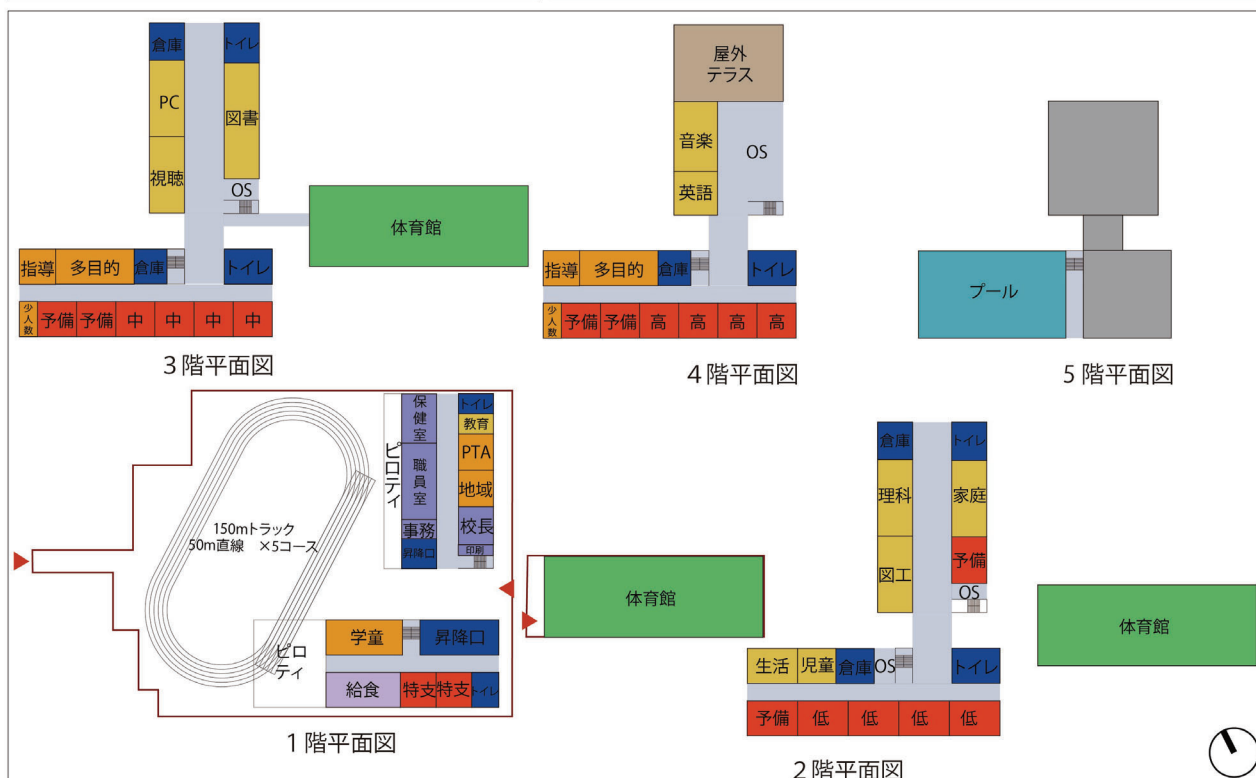
普通教室棟、特別教室棟、体育館が別棟で設計されており、ゾーン分けが明確。

②屋外テラスとオープンスペース

特別教室棟に、オープンスペースと屋外テラスが併設されており、学習環境、生活環境の両方面の向上が期待できる。

③屋外ピロティ

日差しや雨を遮ることができる。



成長を実感する児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの位置関係	オープンスペースの位置
身近に自然を感じる快適な学校	2	△	×	△
衛生的で使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線（普通教室と特別教室の位置関係等）	管理のしやすさ（普通教室と管理諸室の位置関係等）
保護者と地域と歩む温かい学校	8	○	○	○
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ
	10	△	△	○

■ 主に児童へ影響のあるもの
■ 主に教職員へ影響のあるもの
■ 主に地域へ影響のあるもの

(★ ○…4点 △…2点 ×…1点) (無印 ○…2点 △…1点 ×…1点)

●コンセプト毎の評価

成長を実感する児童を育む学校	身近に自然を感じる快適な学校	衛生的で使いやすい学校	保護者と地域と歩む暖かい学校	その他	合計
2	3	-4	8	10	19

●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
6	3	7	3	19

東側配置 B 案



①地域開放がしやすい

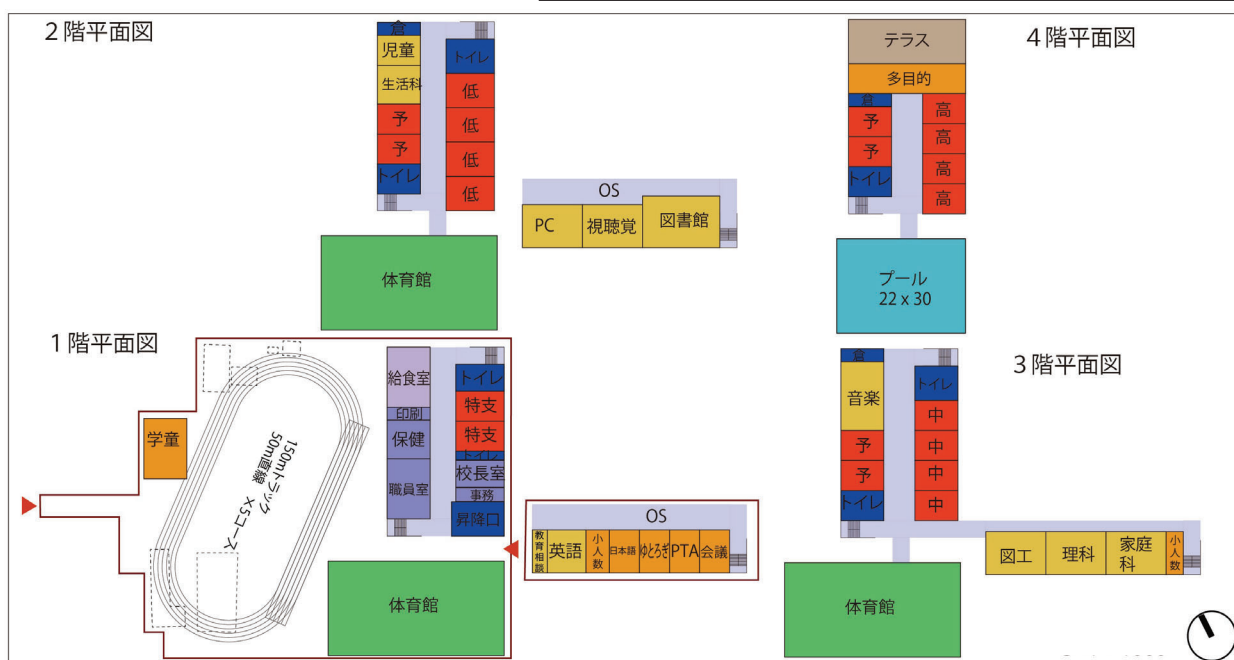
普通教室棟、特別教室棟、体育館が別棟で設計されており、ゾーン分けが明確。

②オープンスペースの確保

特別教室前にオープンスペースを確保しているため、多様な学習が可能

③東向きの普通教室

午前中の日照には問題ないが、午後は教室に日照が入らない。



成長を実感する 児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの 位置関係	オープンスペースの位置		
	4	○	×	△		
身近に自然を感じる 快適な学校	小計	グラウンドの日当たり ★	普通教室への日照・眺望			
	1	△	×			
衛生的で 使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線 (普通教室と特別教室の)	管理のしやすさ (普通教室と管理棟の)		
	2	○	×	×		
保護者と地域と歩む 温かい学校	小計	防災拠点としての 使いやすさ ★	地域開放のしやすさ	管理諸室からの視認性 (校門やグラウンド)		
	8	○	○	○		
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ	プール(アクセスとコスト)	法規制の評価(日影規制)
	6	△	△	△	△	△

主に児童へ影響のあるもの

主に教職員へ影響のあるもの

主に地域へ影響のあるもの

■ 主に児童へ影響のあるもの
■ 主に教職員へ影響のあるもの
■ 主に地域へ影響のあるもの

(★ ○…4点 △…2点 ×…1点) (無印 ○…2点 △…1点 ×…1点)

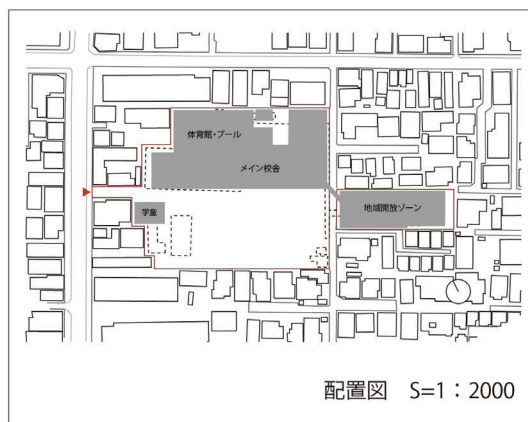
●コンセプト毎の評価

成長を実感する児童を育む学校	身近に自然を感じる快適な学校	衛生的で使いやすい学校	保護者と地域と歩む温かい学校	その他	合計
4	1	2	8	6	21

●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
10	2	7	2	21

北側配置 A 案



①良好な学習環境

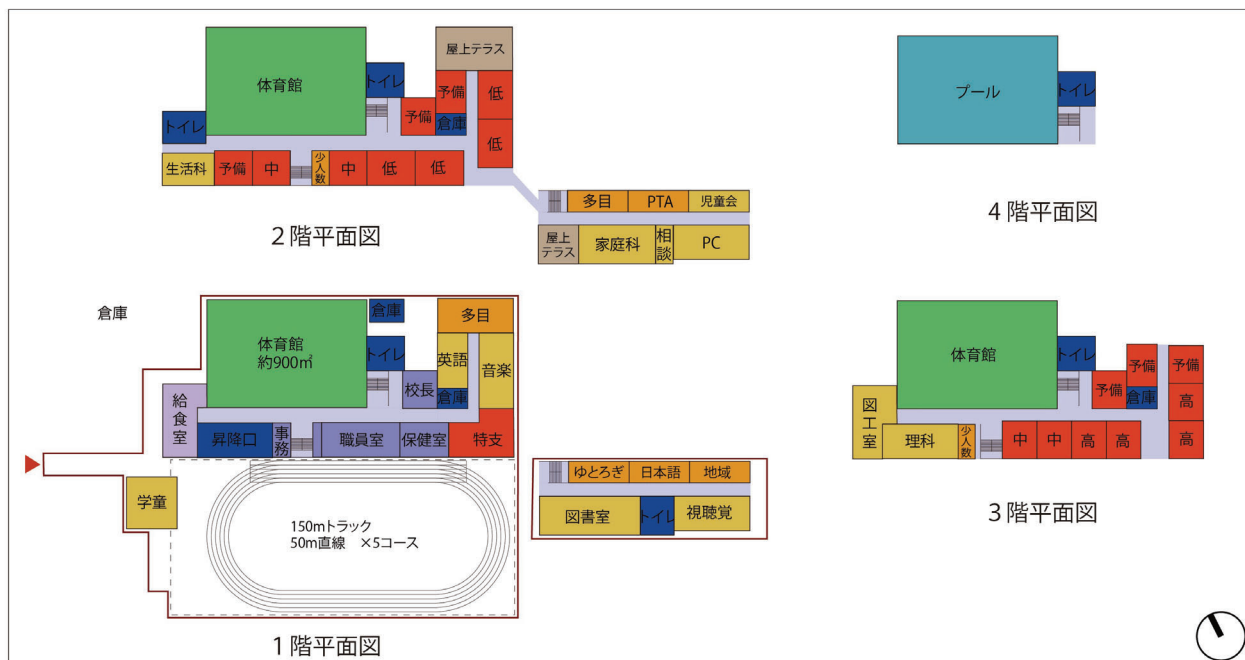
全ての教室が南・東向きで、校舎が北側に建てられているため、日照、眺望が良い。
また、校庭の日照条件も良い。

②地域開放がしやすい

飛地に特別教室が配置されている。体育館も外部からアクセスが可能である。ただし、防災利用の際は、学校生活と区分けが必要。

③仮設校舎が必要

建替え時期に、宮田小学校に通う児童に影響がある。



成長を実感する 児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの 位置関係	オープンスペースの位置	主に児童へ影響のあるもの 主に教職員へ影響のあるもの 主に地域へ影響のあるもの		
	0	△	×	×			
身近に自然を感じる 快適な学校	小計	グラウンドの日当たり ★	普通教室への日照・眺望				
	6	○	○				
衛生的で 使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線 (普通教室と特別教室の 位置関係等)	管理のしやすさ (普通教室と管理諸室の 位置関係等)			
	4	○	×	△			
保護者と地域と歩む 温かい学校	小計	防災拠点としての 使いやすさ ★	地域開放のしやすさ	管理諸室からの視認性 (校門やグラウンド)			
	5	△	○	△			
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ		プール(アクセスとコスト)	法規制の評価(日影規制)
	5	×	○	○		△	○

■ 主に児童へ影響のあるもの
■ 主に教職員へ影響のあるもの
■ 主に地域へ影響のあるもの

（★ ○…4点 △…2点 ×…1点）（無印 ○…2点 △…1点 ×…1点）

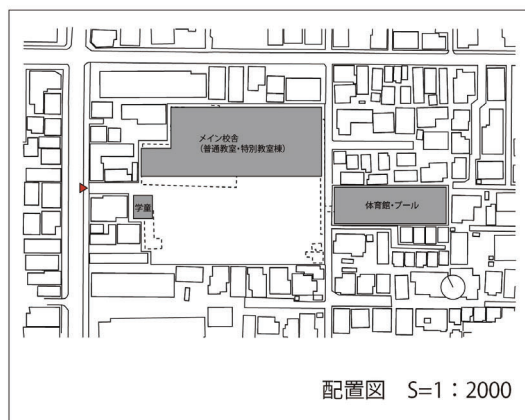
●コンセプト毎の評価

成長を実感する児童を育む学校	身近に自然を感じる快適な学校	衛生的で使いやすい学校	保護者と地域と歩む温かい学校	その他	合計
0	6	4	5	5	20

●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
7	4	6	3	20

北側配置 B 案



①良好な学習環境

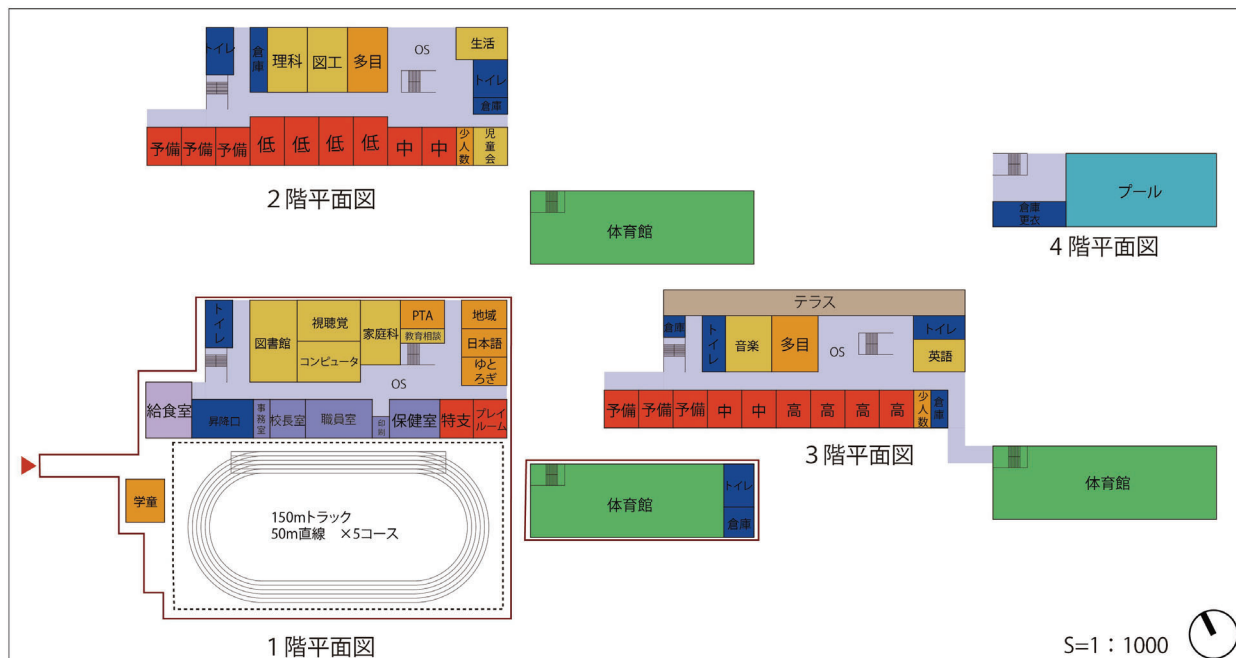
日照、眺望に加え、オープンスペースが各階の普通教室の近くにある。多目的室と併設され、フレキシブルな空間活用が期待できる。

②メディアスペースの利用の促進

生活動線内に図書室などが配置されており、自然と図書に触れる機会が増える。

③仮設校舎が必要

建替え時期に、宮田小学校に通う児童に影響がある。



成長を実感する児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの位置関係	オープンスペースの位置
身近に自然を感じる快適な学校	小計	グラウンドの日常 ★	普通教室への日照・眺望	
衛生的で使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線（普通教室と特別教室の位置関係等）	管理のしやすさ（普通教室と管理諸室の位置関係等）
保護者と地域と歩む温かい学校	小計	防災拠点としての使いやすさ ★	地域開放のしやすさ	管理諸室からの視認性（校門やグラウンド）
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ
				プール（アクセスとコスト）
				法規制の評価（日影規制）

(★ ○…4点 △…2点 ×…1点) (無印 ○…2点 △…1点 ×…1点)

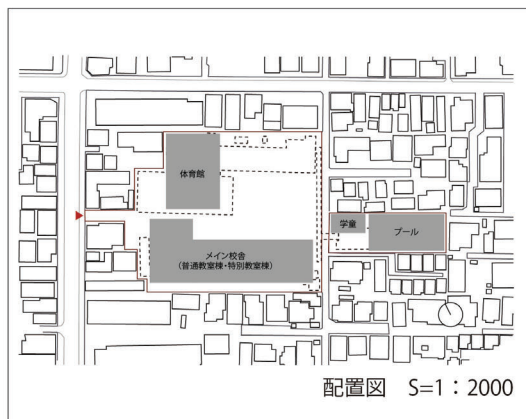
●コンセプト毎の評価

成長を実感する児童を育む学校	身近に自然を感じる快適な学校	衛生的で使いやすい学校	保護者と地域と歩む温かい学校	その他	合計
6	6	2	6	4	24

●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
10	5	6	3	24

西側配置 A 案



①体育館の利便性の向上

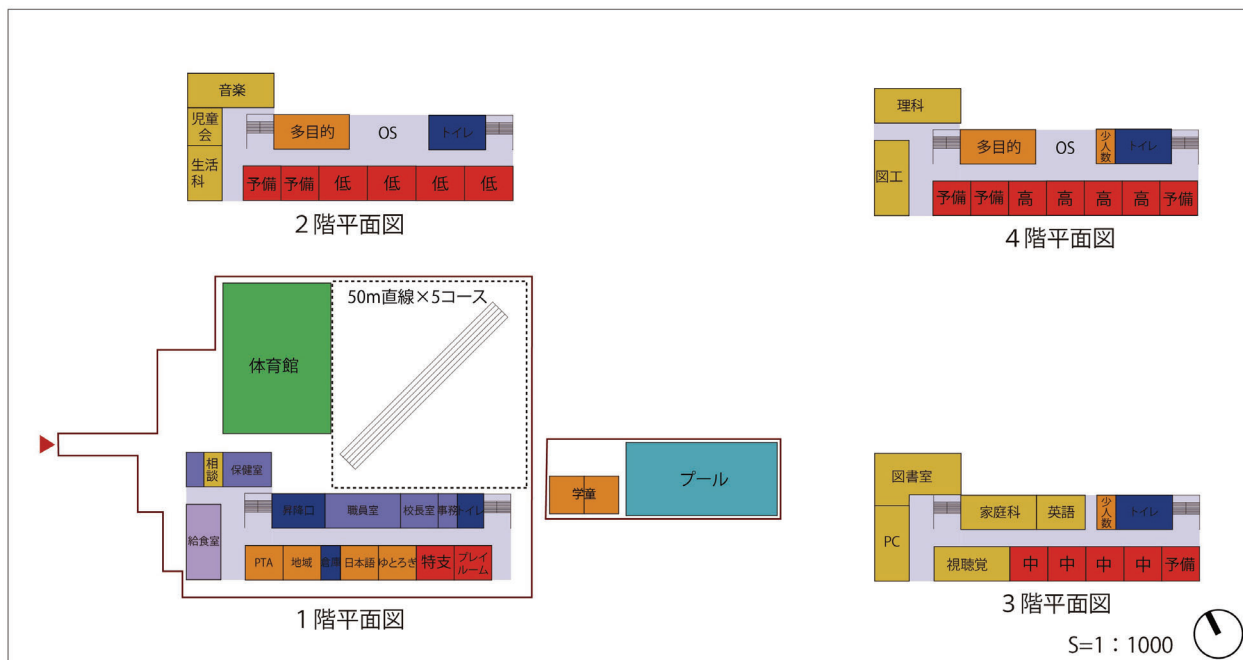
正門に近い西側に体育館を計画しており、地域開放や防災拠点として利用しやすい。

②校舎の中心部に位置するメディアスペース

図書室、PC 室がどの学年からもアクセスしやすい。他の特別教室もまとめて配置されている。

③メイン校庭が狭い

体育館、校舎を本地に計画しているため、定時空いた案の中で校庭が最も狭い



成長を実感する 児童を育む学校	小計	グラウンドの広さ ★	普通教室とメディアスペースの 位置関係	オープンスペースの位置			
	1	×	△	○			
身近に自然を感じる 快適な学校	小計	グラウンドの日当たり ★	普通教室への日照・眺望				
	-1	×	△				
衛生的で 使いやすい学校	小計	体育館の使いやすさ ★	生徒動線 (普通教室と特別教室の 位置関係等)	管理のしやすさ (普通教室と管理諸室の 位置関係等)			
	8	○	○	○			
保護者と地域と歩む 温かい学校	小計	防災拠点としての 使いやすさ ★	地域開放のしやすさ	管理諸室からの視認性 (校門やグラウンド)			
	7	○	○	△			
その他	小計	仮設校舎の必要性 ★	周辺・地域への日影	給食室の搬入のしやすさ	プール(アクセスとコスト)	法規制の評価(日影規制)	
	9	△	○	○	△		○

主に児童へ影響のあるもの

主に教職員へ影響のあるもの

主に地域へ影響のあるもの

(★ ○…4点 △…2点 ×…-2点) (無印 ○…2点 △…1点 ×…-1点)

主児童へ影響のあるもの
主に教職員へ影響のあるもの
主に地域へ影響のあるもの

●コンセプト毎の評価

成長を実感する児童を育む学校	身近に自然を感じる快適な学校	衛生的で使いやすい学校	保護者と地域と歩む温かい学校	その他	合計
1	-1	8	7	9	24

●利用者毎の評価

児童	教職員	地域	その他	合計
8	5	8	3	24

○各配置案の比較

・コンセプト別の各配置案の比較表

配置案		成長を実感する 児童を育む学校	身近に自然を 感じる快適な学校	衛生的で 使いやすい学校	保護者と地域と 歩む暖かい学校	その他	合計
南側	A案	4	-1	5	-2	11	17
	B案	5	-1	8	7	11	30
	C案	2	-1	2	7	10	20
	D案	7	-1	2	6	11	25
東側	A案	2	3	-4	8	10	19
	B案	4	1	2	8	6	21
北側	A案	0	6	4	5	5	20
	B案	6	6	2	6	4	24
西側	A案	1	-1	8	7	9	24

average 22.2

・利用者別の各配置案の比較表

配置案		児童	教職員	地域	その他	合計
南側	A案	10	5	-1	3	17
	B案	14	5	8	3	30
	C案	8	2	8	2	20
	D案	10	5	7	3	25
東側	A案	6	3	7	3	19
	B案	10	2	7	2	21
北側	A案	7	4	6	3	20
	B案	10	5	6	3	24
西側	A案	8	5	8	3	24

average 22.2

表内の項目毎に、評価設定基準（資料3）を設けた。その上で、配置案毎に、コンセプト別と利用者別に合計点の比較を行った。（表中の赤字は各項目で最高得点を示す。）

各評価項目の中で、新校舎推進会議の委員から意見を頂いたものについては、特に重要な点と捉え★印、それ以外は無印としている。（配点：★印○4点△2点×-2点、無印○2点△1点×-1点）

総合計点は、南側B案が最も高く、次に南側D案、次に北側A案、西側A案となった。

コンセプト別では、各配置毎に最高点を取得する項目が分かれ、得意なコンセプトに偏りが生じた。

利用者別では、南側B案が、児童、教職員、地域共に最高得点であった。

評価設定基準

コンセプト	項目	評価	評価基準
成長を実感する 児童を育む学校	グラウンドの広さ	○	トラックが入り、更に余裕がある
		△	トラックが入る
		×	トラックが入らない
	普通教室とメディアスペース (PC、図書室)の位置関係	○	生活動線内に位置する
		△	動線が短い
		×	別棟で動線が長い
	オープンスペースの 有無と位置	○	普通教室の近くにある
		△	普通教室から遠いがある
		×	ない
身近に自然を感じる 快適な学校	グラウンドの日当たり	○	日影にならない
		△	一部が日影になる
		×	大部分が日影になる
	普通教室への日照・眺望	○	日照・眺望共に良し
		△	南向きだが、眺望無し
		×	東向きで、眺望無し
衛生的で 使いやすい学校	体育館の使いやすさ	○	形、アクセス共に良い
		△	形が良いアクセス良くない
		×	形が悪い
	生徒動線 (普通教室と特別教室の 位置関係等)	○	回遊性があり、動線が短い
		△	動線が短い
		×	動線が長い
	管理のしやすさ (普通教室と管理諸室の 位置関係等)	○	全教室がまとまって配置され、 管理しやすい
		△	普通教室がまとまって配置され、 管理しやすい
		×	各教室までの動線が 長く管理しにくい
保護者と地域歩む 温かい学校	防災拠点としての 使いやすさ	○	体育館のアクセスが良く、 学校環境と分離されている
		△	体育館のアクセスは良いが、 学校環境と分離されていない
		×	体育館のアクセスが悪い
	地域開放のしやすさ	○	体育館、特別教室が 児童利用ゾーンと分けられている
		△	体育館、特別教室のどちらかが 児童利用ゾーンが分けられていない
		×	体育館のアクセスが悪い
	管理諸室からの視認性 (校門やグラウンド)	○	職員室の向きがグラウンドと 校門に向いている
		△	職員室の向きがグラウンドにしか 向いていない
その他	仮設校舎の必要性	○	必要なし
		△	計画により必要なし
		×	必要あり
	給食室の搬入のしやすさ	○	容易
		△	校庭を通る必要がある
	周辺・地域への日影	○	建物配置が南側
		△	建物配置が北側
	プールへの アクセスとコスト	○	地上階に設置している
		△	アクセスが遠く、屋上設置で コストがかかる
	法規制の評価 (日影規制)	○	支障なし
		△	計画により配慮が必要

7 新校舎推進会議及び専門会議の会議概要

第1回宮田小学校新校舎推進会議（会議概要）			
日時	令和2年8月28日（水）18：30～19：00	場所	宮田小学校 外国語教室
配布資料	第1回宮田小学校新校舎推進会議資料 別添資料1～4		
会議概要			
1. 新校舎推進会議委員の役割と今後の進め方について （1）宮田小学校の建替えについて （2）新校舎推進会議の位置づけについて （3）協議・検討組織とその役割について 2. 座長挨拶 3. 委員自己紹介 4. 協議 （1）アンケート結果の報告と分析 （2）学校コンセプト（案） 【委員の意見概要】 ◇座長または委員 ◆教育委員会 4. <協議>○アンケート結果の報告と分析および学校コンセプト（案）について 学校の建替えについて意見や要望を集めるため、児童・保護者・教職員に実施したアンケート結果の報告を行い、そのアンケート結果を基に整理される学校コンセプト（案）の説明を行った。 ◇宮田小学校を小学生の時に使用しており、不便に思うことが何点かあった。そのマイナス面をクリアにした方が、コンセプトの土台ができるのではないかと。 具体的には、校庭が狭いことやプールが短いこと。また、講堂が4階であり、外階段から出入りする場合、鍵を管理する人がいないと使用できないこと。備品の収納場所がいろいろな場所にわかれていることなど。 ◇現在の学校の課題の洗い出しも重要だと思う。例えばワークショップを行い、現況について話し合う場を設けることもある。 ◇宮田小学校は街中の学校ということを考慮する必要があると思う。 人との触れ合いが子供の成長につながるため、地域と学校のコネクションを強く持ち、地域が学校に積極的に関わっていく必要があると思う。 ◇学校は地域の拠点という側面がある一方で開放した場合の学校の安全面も大事である。 このことから学校開放の方法を検討する必要がある。 ◇学校は、地域盆踊りなどで校庭を開放してくれている。学校行事に地域が参加できており、交流はできている。一方で地域防災機能が必要と考えるが、学校の入り口が狭いこと			

が課題である。また、人口が増えない前提の中でこの学校・地域の 30 年後を見据え施設のあり方を検討することが大事。

◇体育館が 4 階にあり避難しにくい。建替え後に体育館を 4 階に設置したらエレベーターはつけるのか。

◇アクセスしやすさを考える必要はあるが、一斉の避難だとエレベーターは適さないと思う。体育館はできるだけ設地している方が望ましい。

◇校庭のトラックの真ん中に校舎を建てられないか。1 階に体育館を設置し、扉を開放すれば、日差しも遮ることができる。

◇海外の事例はあるが、走る以外の競技で使用しにくいという課題がある。

◇他の小学校は、昇降口が幅広く、その奥が体育館であり、避難訓練でも使いやすかった。

◇各教室への音の対策は必要だが、体育館を校舎の中心に設置する事例もある。

◇南側に校舎を配置すると、今の校舎を使いながら、建物が完成できたら移るので引っ越しが 1 回で済む。子供たちは建替え中も通学するので負担は少ない方がよいと思う。

◇仮設校舎を建てず、今の子どもたちに負担をかけないことも大事だが、一方で、今後長く使うことを考え、理想的な施設とすることも大事。メリット・デメリットを比較しつつ決めていくことになる。材料の搬入など工事期間中の校庭の使用は難しい。代替地を使用する必要がある。

◇在学中の児童の運動の権利を奪わないようにすることが必要である。工事中の 3 年間は宮田小学校の校庭が使えなければ、大洲小学校の校庭の半分を使用することは可能と考える。

◇事務局から、工事による学校運営への支障について何かあるか。

◆配置計画により変わるが、校庭の確保について大洲小に依頼をした。今後も、できるだけ教育活動に支障がないように進めていきたいと考える。

◇東側と西側に児童を移動させ部分的に壊す校舎を使用することで仮設を造らなくてもいいのではないか。

◇この配置案では既存の校舎を部分的に壊して使用することは考えていないが、その案も考えられる。

◇校庭に日が当たらないのは寂しいと思う。プールは熱中症対策のため、屋内という案もある。体育館が 1 階は水が上がってくると使用できないので 2 階に設置してもいいのではないか。

◇プールは夏しか使わないのはもったいない。避難所のお風呂などのため、体育館の下にプールがあると使いやすいのではないか。

◇プールは温室にして市民プールと共同利用や、民間施設の利用、学校の拠点化などの実例がある。

◆宮田小学校のプール施設をどのようにするかは決まっていない。現在、教育委員会で市川市内の全ての小中学校のプールの方針を作成しており、それと整合を図りながら宮田小学校のプール施設については整理していきたい。

第2回宮田小学校新校舎推進会議（会議概要）			
日時	令和2年9月30日（水）17：30～19：20	場所	宮田小学校 外国語教室
配布資料	第2回宮田小学校新校舎推進会議資料 別添資料1～3		
会議概要			
1. 座長挨拶 2. 報告 ○宮田小学校の学区について（義務教育課長・主幹が説明、質疑対応） ○児童ワークショップの実施について 3. 確認 ○コンセプト（案）の決定について 4. 協議 ○宮田小学校のプールの設置について ○宮田小学校と地域の繋がりについて （1）宮田小学校の地域利用について （2）宮田小学校の外観デザインについて ○配置案の検討について 【委員の意見概要】 ◇座長または委員 ◆教育員会 2. <報告>○宮田小学校の学区について 通学区域審議会で承認された、見直し基準（見直しの視点と流れ）に基づき、現在、市全体の通学区域の再編を行っている。宮田小は建替えにあたり学校規模を決定する必要があることから、先行して見直しの基準に基づき、再編を行った。その結果、現在の通学区域に変更はなく、このことについても、通学区域審議会から了承を得た。宮田小の通学区域についてこの再編案の通りとしてよいか確認を行い、了承を得た。なお、通学区域が自治会を分断しているものの地域から見直しを求める意見はなかった。 ◇学区はどの程度の縛りを設けているのか。 ◆通学区域は、教育の連続性を維持するために教育員会が指定している。しかし、幼稚園等からの繋がりを重視する保護者の希望や文科省の通知があり、許可基準を設けて緩和を行っている。今後、その許可基準も見直しを行っていく予定である。 ◇京葉ガス跡地に大規模集合住宅の建設の可能性がある、その場合はどう対処するのか。 ◆集合住宅の規模が不明であり、その時に建設会社と打合わせを行い、対応する。 ◇現在ある飛地のところはどのようにしているのか。 ◆集合住宅が建設され、受入れ状況を検討した結果、飛地の学区となった。			

＜報告＞○児童ワークショップの実施について

◇学校は子どもだけではなく、先生方の意見も反映して使いやすいものを造って欲しい。

＜確認＞○コンセプト（案）の決定について

◇コンセプトは素晴らしいが、今後、工事中の騒音やグラウンドが使用できない時があり、保護者・地域とのトラブルがでてくる場合に説明が必要である。そのため、未来の子どもや地域みんなが納得するコンセプトの土台が必要と考える。その一つとして、災害に対応できる校舎づくりがあると考え。

＜協議＞○宮田小学校のプールの設置について

◇スペースの問題であれば、体育館の上に造れる。災害に対応する校舎づくりとして、トイレ等の水源確保のためにプールは必要である。地域に開放することもできるし、残してもらいたい。

◇塩浜学園は、バスで 20 分かけて民間プールに行かなくてはならないが、宮田小学校は徒歩 5 分に民間プールがある。また、水泳技術の向上という点でも民間プールを利用した方が良いと思う。一方で、民間プールであると部活動とか特別なことに使用できない。その対応として、塩浜学園は福栄小のプールを借りていた。今の時代、水泳大会がなくなるのであれば、プールがないことは賛成である。プールを全学校に作ると設置費だけでなく維持費、修繕費に膨大なお金が必要であり費用対効果に問題がある。また、屋上階にプールがあると管理面で問題があるため、地域に開放するのであれば、地下または校舎から離れていることが必要である。

◇水泳授業はプロに任せることができ、民間プールなら水も綺麗でいいかもしれない、一方で先ほど話にでた、防災・防火は別の問題として対応をしっかりと考えて貰いたい。

◇着衣水泳は貴重な経験であり、民間プールだと行えないのであれば、その点は検討して欲しい。

◆契約内容によるので、今後、民間施設と協議をしていきたい。

◇部活や着衣水泳などの民間プールでは出来ないものは、拠点化プールの学校を使用すれば良いのではないかと。また、防災・防火面では、タンクで貯水量を確保するなどの対応を検討して欲しい。

◆次回以降に、防災・防火の対応について整備していく。

◇以前に屋上にプールがある学校にいたが寒かった。また、地震が収まった時に、校庭に集まった子供達のいる校庭にプールの水が落ちてきたこともある。

◇防災対策の細かい検討は引き続き必要だが、民間利用ができるのであれば、その施設を使用した方が良くないかという事務局からの提案である。災害については別途に検討するとして、プールについては設置しない方針で基本構想・基本計画づくりを行うこととする。

<協議>○地域とのつながりについて

◇エレベーターがあれば問題ないが、体育館はできれば1階に欲しい。

◇地域に自治会館があるので、現在地域開放している体育館、校庭が使用できれば他はいらない。

◇卒業生が来られるようになると愛着が沸くと思う。例えば、図書館や、みんなでご飯食べられるところを作って欲しいと子どもは言っている。

◇駅前にも図書館があり、学校の図書室を地域に開放する必要性はあまり感じない。地域開放をすると防犯面等の配慮することが色々と出てくる。

◇子どもたちのための学校機能を最優先で確保すべきである。ただ、その中でも、この外国語スペースは運動会の時の食事や日差しを避けて休憩ができ、地域で大きな祭りの時に、ご老人たちが休憩できる場所である。このような空間を少し残して頂けるとありがたい。

◇狭いだけに子どもが使う空間を最優先に考えるべきである。その上で、開放が行えるようにした方がよい。塩浜学園は地域開放室を設けた。また、廊下が広く、その奥に階段状のスペースがあり地域も使える。子どもたちのスペースをプラスアルファで使えるようにするとよいのではないか。

◇外観のデザインでは、塩浜学園は校章のデザインコンセプトを子どもたちに作ってもらい、それを校舎に反映させた。

<協議>○配置案の検討について

◇南側 B 案がよい。理由は、引越しが1回で済む。工事中は子どもが遊ぶ場所がないので、飛地を校庭として使える。アトリウムがあるので教室が明るい。南側に校舎を配置すると運動場が日影になるが、近年の強い日差しから子どもを守ることが大事であり、日影になることは問題ないのではないか。運動場が暗くなる分、競技場にあるような明るいイメージのチップを入れたら良いのではないか。また、イベント等のため、体育館が正門に近い方がよい。アトリウムに自然を感じる樹木等を置いてほしい。校庭に給食室を配置し、災害時に炊出しができるようにしたい。江戸川が氾濫した場合、6階にして避難できるようにして、そこを畳敷きにして、裸足でくつろげるようにしたい。

◇体育館は飛地に作ることはできないのか。

◆ミニバスケットコート横幅12m縦22m程度が必要である。飛地に体育館を設ける計画だと2つコートを確保できない。体育館に重点を置かないのであれば、可能であるが通常の体育館より使いにくい。

◇現在も地域に開放もしており、バレーボール等ができないなら難しいと思う。

◇体育館を飛地に設置するれば本地が広く使えるが、体育館が機能できないほどの広さであれば難しいと思う。

◇別館に普通教室を設置することは児童の管理面や給食の搬入などで難しいと考える。

◇特別支援教室は設置されているが、他の子どもがいないところに特別支援の教室があると交流ができなくなり心配である。

◆全ての学校に特別支援学級を設置する方針である。しかし、障がいの種別にもよるため、設置形態までは決められていない。今後、協議をして進めていく。

◇災害対策として、地下に循環する貯留槽等を設置すれば、高いところにプールを造る必要はない。校舎は北側にあって校庭から見ると日を浴びて校舎があるイメージがある。もちろん、仮設校舎などの費用が生じるから何とも言えない。また、飛地に体育館があるとイベントのときなどに、十分な広さが確保できるのか疑問を感じている。

第3回宮田小学校新校舎推進会議（会議概要）			
日時	令和2年10月29日（木）17：30～19：00	場所	宮田小学校 外国語教室
配布資料	第3回宮田小学校新校舎推進会議資料 資料1 児童ワークショップの結果まとめ 別添 宮田小学校新築 基本構想・基本計画（案）		
会議概要			
1. 座長挨拶			
2. 報告 ○児童ワークショップの結果について			
3. 協議 ○基本構想・基本計画（案）について			
【委員の意見概要】 ◇座長または委員 ◆教育委員会 ＜協議＞○基本構想・基本計画（案）について			
◇体育館と校庭は既存と比べると広いのか狭いのか。			
◆既存の体育館の広さは約 500 m ² 、計画では約 700 m ² あり、ミニバスケットコート 2 面を設置できる計画である。案 1 の校庭の広さは、既存より若干狭いが南側のビオトープを足すと同等になる。案 2 の校庭の広さも既存より若干狭いが、案 1－2 よりは広く、ビオトープを足すと既存の校庭より広くなる。案 2 の校庭の広さは既存より狭く、ビオトープを足しても既存の校庭より狭くなる。			
◇ビオトープをなくし建物を隣地側に寄せてグラウンドを広くすることもできるのではないかな。			
◇建物を寄せることも考えられるが、ビオトープは校舎と隣地の干渉材としての機能もある。			
◇避難所として使われる体育館は、浸水を考慮し 2 階にあったほうが良いのではないかな。			
◇案としてプールをなくすことは構わないが、子どもたちや保護者に理由を説明した上で決めた方が良い。			
◆基本計画がある程度整った段階で児童、保護者には説明を行う。また、市川市の方針として市内のプールの保有数を削減していくという方針を策定中である。プールを全ての学校に保有するとコストの面で維持できなくなることが想定されるため、数校に一つの拠点校や民間施設の利用を行う計画である。敷地が狭小という問題もあるが、宮田小学校は民間施設で受け入れが可能であるため民間施設を利用する計画である。先行して民間を使用している塩浜学園や行徳小は泳力の向上、熱中症対策、衛生面、プロによる指導など利点が多い。			
◇土曜日や長期休暇は地域に校庭が開放されており、放課後保育クラブの子供たちが利用			

できなくなる。ビオトープの一部をサブ校庭または屋上を利用するなどして体を動かせるようにして欲しい。

◇地域ふれあい館は学校に設置するのか

◆既存の地域ふれあい館は建替えができない状況であり、宮田の地区に必要な施設と判断し、学校施設に複合化を行う方向で検討している。

◇地域ふれあい館は学校も使う想定か。

◆現状は、学校は使わない想定である。

◇現状の地域ふれあい館の利用用途は。

◆集会室として利用している

◇ふれあい館だけでなく他の複合化施設に関しても、空いている時間に学校が利用できるかの検討が必要である。学校敷地に設置するのだから学校側にもメリットが必要である。

◆複合化施設についての共同利用は今後、担当課と調整を行う。

◇学校の敷地に合わせた利用をする必要がある。設置しない場合も考えられるので慎重に判断して欲しい。

◇ビオトープが南側の隣地に近いとジメジメしそうである。体育館の上部を屋上庭園にできないか。また、児童が4階から校庭に出るのは大変なので、体育館の屋上を運動スペースにできないか。

◇保育クラブは子どもの数が増えているがこの規模で適正か。子どもたちがすぐに外に遊びに行けるよう設置する位置は道路側がよい。

◇PTA 会議室は利用頻度が少ないので、備品などは倉庫を造り収納し、他の部屋と兼用も検討できないか。

◇体育館の横に普通教室が来ると体育館の音が響く。先生が5階まで移動する負担を軽減するためエレベーターがあるとよい。

◇地域ふれあい館は、日中は市民が優先で使っているが、放課後は子ども教室で利用できるようにすることも考えられる。屋上をビオトープにする場合、維持管理などのメンテナンスも考え設置の検討が必要になる。

◇宮田小学校の大きな問題の一つが入り口の狭さである。用地取得は相手があり、時間もかかるがトライして欲しい。入口が狭いため防災面が心配である。はしご車等消防車両が入れるのか、防災担当の部門に確認してもらいたい。

◆宮田小学校の設計は令和3年度から始まり、用地の取得となると時間がかかる。用地取得と設計計画は分けて進めていきたい。また、用地の交渉などは引き続き行っていきたい。

◇アプローチは体育館の下を通れるのか、それとも児童は周るのか。

◆回らずに入ることができます。

第4回宮田小学校新校舎推進会議（会議概要）			
日時	令和2年11月25日（水）17：30～19：00	場所	宮田小学校 外国語教室
配布資料	第4回宮田小学校新校舎推進会議資料 資料1 参考配置図		
会議概要			
1. 座長挨拶			
2. 協議			
○メインコンセプトについて			
○前回の会議を踏まえた配置計画の検討について			
3. 連絡事項			
【委員の意見概要】 ◇座長または委員 ◆教育委員会			
＜協議＞○メインコンセプトについて			
◇宮田小学校は70周年という歴史がある。メインコンセプトの「Condensation」の中に歴史を表すような言葉を入れたらどうか。			
＜協議＞○前回の会議を踏まえた配置計画の検討について			
◇飛地は2階の渡り廊下に入出口を設けるだけで、今のように西側の道路沿いや裏門に入出口は設けないのか。			
◆本地と飛地には門を設け児童が往来できるよう計画する。また学校が閉まっている間は渡り廊下も閉めるので、直接利用ができるように西側の道路沿いに入出口を設ける。			
◇エレベーターは子どもが使うのか。また、何人乗れるのか。			
◆車いす使用者など特別の場合を除き、子どもの利用は想定していない。規模は利用者数や設置場所を考え、適切に計画をする。			
◇給食の配膳はこのエレベーターを使うのか			
◆配膳室の中に小荷物昇降機を設置する。			
◇飛地の2階にある放課後子ども教室兼英語教室について、放課後子ども教室の利用は遊びが中心である。英語教室との兼用は、学校で使う学習机を毎日片づけることになるため難しいのではないのか。			
◇机などはキャスター付きとしたり、机を置かない授業形態も考えられる。英語教室の使い方による。			
◆英語教室を兼用するとは決まっていない。学習机の利用頻度が少ない授業を行う教室との兼用や備品倉庫を設けるなど考えられる。共同利用により各施設を最大限に活用することが、子どもたちのためにもなることから、施設を共同利用できる条件を考えたい。			
◇英語教室は授業内容により、机を使用したり、机を使用せず壁に寄せて児童を集めるな			

ど多様な使い方をしているため可動式の机を設置した方がよいと思う。

◇配置案はこの1案で決まりなのか。

◆基本構想・基本計画には、前回提示した案を含め複数案提示する予定である。

◇水槽タンクや配電盤などの設備機器はどこに造るのか。浸水被害を想定し、配電盤は2階がよいのではないか。

◆設備室をどこに配置するかは実施設計で計画する。その際には、水害被害にも考慮して計画する。

◇飛地を工事中の校庭として使えたらよいと思うが、工事計画はどのようなになっているのか。

◆実際の工事計画にならないと答えられないが、学校の運営に与える影響が最小限になる配慮をする必要があると考えている。一方で、そのような対応により工期が延びてしまうことを加味しながら適切な方法を検討する必要があると考える。

◇毎日の子どもたちの移動を考え普通教室は4階までがよい。また、配置案の地域ふれあい館の位置はよい場所なので、子どもたちのスペースとして使用して欲しい。地域ふれあい館などの複合化施設は飛地に集約し、エレベーターはいらないのではないか。視聴覚室の廊下はなくして広く使えたほうがよいのではないか。

◆配置案はこれで決定ではなく、設計に円滑に移行するための条件整理である。この会議で地域ふれあい館の使い方や設置することによる教育効果を踏まえて、設置場所や利用方法等についてご意見を頂きたい。

◇前回の案では東側に普通教室を設置したため普通教室は4階までとなっていた。今回の案は南側に配置したため、普通教室は5階となった。どちらを取るか難しいが、室の配置換えで検討と考える。基本構想・基本計画を策定する上では、複数案を提示することが多く、教室は4階までの案や地域ふれあい館の位置を変えた案を組み合わせ提示することもある。あえて絞り込まず、設計者にベストな計画を提案して貰うことも考えられる。

◆設計者からよりよい提案を頂くため、基本構想・基本計画の記載方法については、例えば「普通教室は通風や採光に配慮する」など、大まかな設計条件を提示している。

◇配置計画は北側の住居に配慮するため、南側配置がよいと思う。

◆そのような利点もあるが、良い設計の提案を求めるため、前回提示した北側配置案も基本構想・基本計画には記載する予定である。

◇多様な子どもへ対応するため、ジェンダーにギャップがある子どもがトイレに行けるような配慮をしてほしい。

◆トイレには、男女それぞれのブースと多目的トイレを計画している。

◇子どもは思いがけない行動をするので、屋上広場は危険のないようにしてほしい。また、地下に部屋を作る案はないのか。ビオトープやサブ校庭はどのくらいの広さか。ごみの置き場や小動物を置くスペースなどはどのように考えているのか。

◆具体的な対応は明記できないが、屋上は安全に配慮した計画とする。地下へ教室を配置するためには、採光や通風の確保が必要なる。そのためには、教室の周りに空堀を造る必要があり、校庭の広さが狭くなる懸念に加えてコストの面からも実現は難しいと思う。サ

ブ校庭、ビオトープは奥行きが約 10m である。

◇この地域は浸水の心配があるため、地下の利用は十分な対策が必要である。

◇地下に部屋を設置すると、湿気への対応も必要である。校舎のすべてでなく一部を地下、又は半地下にすることも検討する必要があるのではないかな。

◇ビオトープとサブ校庭は住宅と隣接しており、子どもの遊び声や池にボウフラが沸いた場合に、近隣の迷惑にならないか心配である。屋上広場は、夏の暑さをしのぐ屋根があれば更に活用できる。地域ふれあい館の現在の利用は、一般団体が部屋を借りる仕組みであり、この場所に設置しても子どもたちと直接触れ合う活動はしないと思う。このような場所を祭りや運動会の時に使えるのはとてもいいが、子どもが活動している時間に地域ふれあい館が利用するには、この場所は適切でないと思う。

◇ビオトープは池をなくして植栽だけにするなどの検討も必要である。地域ふれあい館は、現在のような貸部屋のタイプや、学校が開いている時間は地域ボランティアに貸し、児童の作品の掲示や地域住民が訪れるようなラウンジタイプの利用形態も考えられる。

◆地域ふれあい館を学校の中に新たに設置するのであれば、運営の在り方を検討する必要があると考えており、現在担当部署と協議をしている。

◇地球温暖化の対応として、屋上緑化は是非行ってもらいたい。子どもたちだけでメンテナンスが大変なら、地域が手伝うことも考えられる。ソーラーパネルの設置も検討してもらいたい。

◆屋上緑化やソーラーパネルについて、運動スペースの確保や構造にかかる負荷、メンテナンスなどを踏まえて積極的に検討していきたい。

◇子どもの遊び声について、近隣はアパートが多く、共働きの家族が多いため日中は不在の家も多い気がする。もちろんお年寄りも多いが、今も子どもたちは校庭で遊んでいるので、現状と変わらないのではないかな。

◇ビオトープやサブ校庭は低学年が使用し、メイン校庭は中・高学年の使用も考えられる。また、屋上にビオトープを設置することも考えられる。

◇地域ルームは色々な使い方ができるように計画して、後で運用方法を変えていくことも考えられる。地域開放時は地域のボランティアで運用をするなど、うまく使って、学校の負担にならないように両立できるとよい。

◇計画はメインコンセプトに沿った造りになっていると思う。ただし、普通教室は子どもの負担等に考慮し、4 階までにした方がよい。地域ふれあい館は貸し部屋でなく、交流ということを考えるとラウンジタイプにして、地域と分けではなく共有ができればと思う。

3. 連絡事項

今年度の新校舎推進会議は終了である。ご意見を頂き、大きな方向性が定まったので 2 月の教育委員会会議で正式に決定する予定。基本構想・基本計画の文言の調整などはコンセプト会議に一任して頂くことに委員から了承を頂いた。策定したら委員に資料の郵送を行う。

子どもや保護者への説明は基本構想・基本計画の策定までに行う予定である。コロナを踏まえ実施方法については、学校と協議し決定する。また、基本構想・基本計画に至るまでの、策定過程を広く市民や保護者に知らせるため、推進会議の議事録（概要版）などを市の公式 Web サイトに掲載することについて委員から了承を頂いた。来年度は委員に頂いた意見を設計に反映し、適宜、報告や意見を頂きたいと考えている。具体的にどのような形をとるかは今後検討を行う。

宮田小学校新校舎推進会議 臨時会 会議概要			
日時	令和3年3月22日（月） 17：30～18：00	場所	宮田小学校 外国語教室
配布資料	宮田小学校新校舎推進会議資料 臨時会 別紙1 宮田小学校建替え事業基本構想・基本計画（案）の意見・質問に対する回答について（概要版） 別紙2 宮田小学校建替え事業基本構想・基本計画（案）の意見・質問に対する回答（詳細版）		
会議概要			
1. 座長挨拶			
2. 報告事項			
○基本構想・基本計画（案）に関する保護者への説明について			
・基本構想・基本計画（案）を保護者に周知するため、説明用動画を配信した。 ・内容に関する意見や質問に対して、別紙2の通り回答した。 ・この回答は宮田小学校のHPに掲載する予定である。 ・児童に実施したワークショップの結果についても、児童に報告した。			
○宮田小学校の建替え事業について			
宮田小学校は建替えのモデルになるため、より丁寧な検討が求められおり、コロナや Society5.0 など、社会情勢の変化を踏まえた新たな課題（学校の DX 化、学校施設のカーボンニュートラル化）についても検討する必要があると考えている。そのため、この課題についても検討を進め、基本構想・基本計画に反映していきたい。			
【委員の意見概要】 ◇座長または委員 ◆教育委員会（事務局）			
◇具体的な建替えの進め方はどのようになるのか。			
◆学校の DX 化やカーボンニュートラル化について、どちらも学校だけでなく、市川市全体として、どのように取り組むのかを考えていく必要がある。そのため、それぞれの課題について、庁内の検討体制や、外部（専門家等）への相談体制など、進め方についてもこれから検討を行っていく。			
◇宮田小学校新校舎推進会議は、どのように関わっていくのか。			
◆これまで協議してきた、基本構想・基本計画の内容を見直すものではない。しかし、新たな課題の検討にあたっては、新校舎推進会議に報告しながら進めていくことが大事だと思っている。今までのように定例ではないが、その都度、会議を開催させていただきたいと思う。			
◇DX 化とカーボンニュートラル化は、我々が議論する問題でないので、専門家等を活用して進めて頂ければと思う。しかし、子ども達のことを考えると、この課題のために建替えをあまり遅らせて欲しくない。			

◆コロナによって、想定以上に社会の変動があったことを感じている。設計に入ると計画の変更は難しく、学校は何十年も子どもたちの教育を担う施設であるため、この課題の方向性が具体化してきた段階で設計に入りたいと考えている。スケジュールを遅らせないようにということも考えながら、必要なことについては議論をして計画に盛り込みたいと思う。

◇新校舎が使える時期は変わらないのか。

◆設計 2 年、建設 3 年の期間を想定し、概ねの供用開始時期をお伝えしてきたが、仮設校舎の有無や配置計画が決定していない現段階では明確な供用開始時期はお答えできない。

第1回宮田小学校 専門会議 会議概要			
日時	令和3年10月4日（月） 10：00～11：30	場所	第2庁舎 大会議室1
配布資料	第1回宮田小学校 専門会議		
会議概要			
次第			
1. 委員挨拶			
2. 事業計画について			
(1)目的			
(2)課題			
(3)検討体制			
(4)スケジュール			
(5)新しい時代の学びの環境整備先導的開発事業			
3. 宮田小学校について			
(1)宮田小学校の紹介			
(2)昨年度に整理した、基本構想・基本計画（案）について			
4. 協議			
(1)学校のデジタルトランスフォーメーション（以下、「DX」）について			
(2)学校のカーボンニュートラル（以下、「CN」）について			
【委員の意見概要】 ◇委員 ◆市長部局及び教育委員会			
<協議>			
(1)学校の DX について			
◆目指すべき学校環境を実現するための、ICT の活用について、考えられる取り組みを整理した。これらの取り組みを踏まえて、必要な施設レイアウトや空間づくりを宮田小学校の基本構想・基本計画に反映していきたいと考えている。			
◇父兄と学校間の情報共有ができる仕組みは計画に含まれるのか。			
◇統合型学校支援システムの中で、保護者との情報連携については、今後、常識的に含まれてくると思う。			
◇子供たちが生活の中でどのように端末に触れていくのか、使われていくのかのイメージはどのように考えているのか。			
◇現在は、端末機器が一斉に配られネットワーク環境もつながったが、先生にも子供にもICTリテラシーがない。機器自体も、今はタブレットを貸出しているが、6年後はどうなるかもわからない状況である。その間に、市川版コアカリキュラムやデジタルリテラシー			

教育を系統立てて行うことで、学習カリキュラムの中で徐々にリテラシーをつけていくことになると思う。

◇DX は相当なスピードで進んでいる。視聴覚室にプロジェクターを付けたが使わないうちに、もっと安くて性能の良い機器を使用しているケースもあり、全て一体化されたものだ、すぐ時代遅れになることも考えられる。ソフトを変えれば、設備を変えなくても機能の更新ができる等のフレキシビリティが必要である。

◇今後、授業の形態が変化し個別指導塾のような形態も考えられるが、それ今行くと、通常の授業が成立しない。今も使えながら、将来変わった時にも対応できるような空間を造らなくてはならない。

◆ご議論いただいているとおり、導入する機器は時代と共に変化すると考えている。設備は入れ替えればよいが、50 年近く使用していく空間は容易に更新ができないためその辺りでご意見を頂きたいと思う。

◇DX が進んできたときには、学習環境の在り方が大きく変わってくる。文科省が掲げる個別最適化が進むと、個別学習、ペア学習、グループ学習、学年の縦割り学習等、学習の組み合わせが多様になる。そのため、教室の壁を取り払い2 クラスが合同で授業ができる等、施設の柔軟性は最低限必要になる。また、1 クラス内でも、多様な活動に対応するため、教室のサイズも広い方がよいが、そうすると必要な18 教室数が確保できるかとの問題もある。

◇小学校でも、高学年は専科制が進んでおり、算数等の特別教室も考えられる。

◇今までは、音楽室や理科室等の特別教室は授業の中でしか使われることが少なくなかった。これからは、音楽が好きな子は音楽の授業以外にもピアノを弾けるような、子どもが探求したいことに合わせて、子ども達の興味を掻き立て、家庭では体験できない空間がいくつもちりばめられた、多様な楽しみの場がある学校であることが公教育の価値となる。

◇創作活動や発想、実験、ソファでアイディアを考えたり、休憩したりと、色々なことができる場を身近に設けることが重要である。図工室や理科室等、特定の目的で部屋を使うことを考えず、水や火を使え、汚してもよい何でもできる総合的な実習スペース（ラボ）を教室と絡めながら、空間を作ることも考えられる。

<協議>

(2)学校の CN について

◆二酸化炭素排出量ゼロを目指した施設整備を行い、その取り組みが児童への環境学習や保護者・地域住民へ波及することを目標に、CN の取り組みを整理した。この中から、宮田小学校に実施するものを絞り込み、基本構想・基本計画に反映していきたいと考える。

◇学校の環境の品質を確保する必要がある、その上での目標となる。エネルギーと環境というのは相反するところがあり、暑いと勉強にならないが、一方で常時冷房を入れることはできない。コストとのバランスになるが、文科省が推奨している学校環境の基準を満たしつつ、ゼロエネルギーを目指すということを市役所内部で固めておく必要がある。本気でゼロを目指すなら、従来の学校よりイニシャルコストがかかることを見込んでおく必要

がある。

◇運用面では、二酸化炭素排出係数の少ない電力はどんなにエネルギーを使っても CO2 排出量はゼロだが、調達の日途はあるのか。日途がなければ、省エネルギーを実現していくため、エネルギーのマネジメントも考えていかななくてはならない。これは、学校1校の問題ではなく、学校全体のエネルギー消費量をどのように管理していくかにつながる。

◇コストの観点からだと、まずはアクティブデザインを取り入れ、効率の高い機器を入れていくのが間違いなく確度の高い対策である。その上で、設計者のアイディアにより、パッシブデザインで建築的な工夫をできる限り行っていく。

◇自然採光や通風の考え方が基本構想・基本計画に入っていたが、代表的な例としての記載であれば不要だが、必ず実現して欲しいことであれば設計者に意図が伝わりやすいように、プロポーザルの要件を整理していく必要がある。

◇5階建ての学校の ZEB 化は、延床面積に比べ太陽光発電の設置面積が小さく、かなり困難になる。どうしても ZEB 化が前提であるなら、大幅にコストをかけることも考えられるが、落としどころを見付けていく必要がある。

◇環境学習は目標がきちんと設定されていて、維持運営の方法が見えてくると、そのこと自体が学習のリソースにつながっていく。

◇CN 設備の説明パネルを学校施設に設置することは、児童も見慣れているのであまり教育効果はないと思う。それよりも、児童が自分で電力消費量や発電量を記録し、自分たちが使った分と発電した分がどのくらいの差し引きとなるのかを体感できると学習効果が高い。

◇エネルギーの見える化により、子ども達の考えに対してのソリューションをトライ&エラーができるような場が欲しい。今はシュミレーションまではできが、それを試して何が有効なのか机上の空論で結論を出してしまっている。子ども達の考えたことが試せるような余白があるとよい。

◇施設設置の段階で具体的な教育内容が見えてくると、どのような施設整備が必要かわかる。

◇ビオトープは管理が大変である。緑に触れる環境を整備するということであれば屋内に観葉植物をおくこともできるので、あまりこだわらない考え方もある。

◇ビオトープは低学年の観察教育にしか使われていないことが多い。高学年が新たなビオトープをプランニングして、作ることでノウハウが蓄積され、成長につながるという仕組みができ、これが学習カリキュラムとなる。環境教育は、学校施設と学習カリキュラムが連動されることが必要だと感じる。

(3)その他の意見

◇校舎が南に立つと運動場が日影になる。温暖化を考えたときいかに効率よく日影を作ることも不可欠ではないか。

第2回宮田小学校 専門会議 会議概要			
日時	令和3年10月26日(火) 10:00～11:30	場所	第2庁舎 大会議室1
配布資料	第2回宮田小学校 専門会議		
会議概要			
次第			
1. 協議			
(1)学校のデジタルトランスフォーメーション（以下、「DX」）について			
(2)学校のカーボンニュートラル（以下、「CN」）について			
【委員の意見概要】 ◇委員 ◆市長部局及び教育委員会			
<協議>			
(1)学校の DX について			
【導入する設備の方向性について】			
◆ICT は常に新しい機器が導入されるため、機器自体の機能の更新の容易さ、設備本体の取り換えの容易さ、設備の移動の容易さを考慮した施設整備を検討している。			
◇大型提示装置は倒れないように足元廻りが大きくなっており、想像よりスペースが必要となる。大画面であれば壁に固定することも考えられ、今までの黒板の大きさが本当に必要なのか、機能性と使い勝手のバランスをとる必要があると思う。			
◇ICT を充実させた大阪の学校を視察した際に感じたことであるが、空間に余裕を持たせ教室を広めに計画している。従来の 8m 四方の教室では、40 人の児童が入ると空間の余裕がない。大型提示装置は教室のサイズに合わせて、移動式ではなく設置式とすることも考えられる。			
◇他にも、教室の天井からモニターが吊るされ、角度が変えられることもある。イメージを具体的に細分化していく必要があると思う。			
◇児童全員が端末を持ち、場所を選ばない使い方をする場合は、パソコン室や視聴覚室の必要性も検討するべきである。少なくともパソコン室のデスクトップパソコンはいらなくなると思う。			
◇デジタルファブリケーションを進めるため、これからの視聴覚室には、即座に思考を可視化できる安価な 3D プリンターを計画することも考えられる。			
◇立派な設備をつけても新しい便利な機器が直ぐに市場に出てくることもある。視聴覚室やパソコン室の機器は、ビルトインではなくフレキシブルに交換ができるものとし、多目的に使える先進的なラーニング室として計画することも考えられる。			
◇大型提示装置等の立派な物を導入しても、すぐに陳腐化することもある。高価でなくとも子ども達が自由に使えるものが求められてくる。市川市として DX を学校でどのように進めていくか、方針があると進め易い。			

【普通教室廻りの整備の方向性について】

◆個別最適化が進むと学びのスタイルが多様化するため、柔軟な施設整備が必要となり、普通教室廻りを柔軟に使える計画を検討した。

◇オープンスペースの形態が2パターンあるが、モデルケースを説明しているのか。また、オープンスペース自体の面積は違うのか。

◆あくまでモデルケースとして提示している。廊下を2mと想定すると、オープンスペースの面積は70㎡程であり、大きな違いはない。

◇廊下とオープンスペースは兼用による音の影響により、使い勝手が悪くなる。廊下とオープンスペースを壁で仕切ることも考えられるが、その場合は空間の幅が狭くなり使い勝手が悪くなる。低学年はオープンスペースを教室に取り込み広い教室を計画する等、オープンスペースの形態は学年毎で変えることも考えられる。

◇低学年はクラス単位の学習の運営が重要である。また、高学年は教科担任制の導入により、クラスを超えて習熟度別に行う等、学年全体で授業を行うことも考えられ、大空間が必要になることもある。今までの考え方にとらわれずに学習の在り方がどのように変わるのかを前提に、教室の環境を計画する必要がある。

◇家具配置の使われ方について、具体的なイメージを示すことも考えられる。

◇市の意図を明確に設計者に伝えるため、必要事項を整理する必要がある。例えば、可動間仕切り壁では、掲示できるスペースが減るため代わりに確保する広さや方法、什器・収納についても必要な量を示す必要がある。音、冷暖房、換気についても、色々な案が出てきてしまうため満たさなくてはならないものをある程度整理しておく必要がある。

◇案1は、クラス同士に設置した可動間仕切り壁は、ほとんど開けられないことが想定される。音の問題もあり、可動式間仕切りもかなりスペックの良いものとする必要がある。

◇教師の多忙化により学年連携で授業のミーティングを取ることが難しい中、学級単位でオープンスペースを使うことが想定される。自分たちの教室の前を使う、案2はお互いに遠慮をし合い、使われない空間となる事例もある。設計者に案を募集するときに、どのような学年経営や教育を目指していくのかにより計画が変わるため、どちらがよいかを決めることではできないと思う。

◇廊下とオープンスペースの一体型は、冬寒く使われないため対策が必要である。

◇案1でも、廊下を仕切れるようになると隣の教室を気にせず活動にできるが、それなら教室を広げたほうがという議論もあり難しい。オープンスペースは、何に使うのかを明確にし、学年共有で使うのであれば、学年毎に造る方が使われることになる。基本計画では、目指すアクティビティを文章化し、デザインは設計に任すこともある。

【特別教室の整備の方向性について】

◆特別教室は目的や用途により、親和性の高い教室同士を隣接させ、専門性が高い施設を整備する。また、普通教室廻りを柔軟に使用できるように整備することで、少人数教室が不要になることも想定され、少人数教室の兼用も含めて、新しい特別教室やLab空間の設置や機能について、学校と協議を行いながら検討を進める必要があると考えている。

◇このプランが前提に見えてしまうが、これが最適解ではなく、特別教室同士が関連しているメリットを基本計画で示した上でモデルプランを示すことになると思う。宮田小学校は敷地がコンパクトなので、全部図書館に集めることは無理だが、フロアが違って行き来し易い計画となることもある。

◇モデル案は、敷地条件に合わせて計画しているだけである。関連の高い教室をまとめるのは必須であり、例えば3階をラーニングラボとして特別教室を集約させる等のドラスティックな考え方が必要である。

◇普通教室を南向きにすることに縛られなければ、1階と3階が普通教室、2階は特別教室として計画することも考えられる。

◇視聴覚室や英語教室は、図書室と関連させメディアセンターとすることも考えられる。

◇理科室や図工室は屋外に出やすいことや、メディアセンターに隣接させた方が良いとの考えもある。市で関連させるものを決めてから設計を依頼するのか、教科同士の繋がりを考え特別教室のゾーニングを設計に依頼するのかを決めた方が良い。

◇学校が避難所として開設された場合、家庭科室が体育館や運動場と近いと、炊き出しや水の供給でも便利との事例もある。

◇児童の使い方をイメージして情報端末を整理していくことが重要である。休み時間等の授業以外の時間も学校内を自由に持ち運びできることをイメージされるのなら、パソコン室と図書室を隣接させる必要はないように感じる。

◇地域開放も発注者側があいまいで議論になることが多く、市としての方向性を示したほうが良い。

◇自然通風を改めて見直そうとしている中、参考プランは肉厚な建築物であり、教室内の環境面が気になる。

◇機械換気が前提であれば、ランニング面がかかる。従来の自然換気だと換気量の確保を気にしなくてはならない。

(2)学校のCNについて

【目標の庁内調整について】

◆基本構想・基本計画で定めた目標が設計時に的確に反映されるように、環境担当部、設計建設担当部でCNを目指すことについて共通認識を図った。

◇CNにするには、太陽光等インシヤルコストがかかるため予算が増額になる。目標の共通認識を図ったとのことだが、必ずCNを目指すのか、できる範囲でCNを目指すのか。プロポーザルの要件として、市としての考えを決めておいた方が良い。

◇文科省の「新しい時代の在り方検討部会」の中間報告では、ハードルは高いがZEB化は必要と明記している。児童には、なぜ環境に配慮した建物が建築されているのか教育をしていくべきと思う。

◇今後建替えていく宮田小学校がどういう役割を果たすのか、フラッグシップ施設として市民全体の啓発活動に使う前提となるなら、データーを取って今後の整備に活かしていくことが必要となる。公共施設として水平展開するのであれば、この地域だけではない行政

としての説明が求められる。

◇国は、地球温暖化対策として 2050 年で 100%を目指している。フラッグシップになるとすれば、教育委員会だけの事ではなく、環境部と調整の上で進めていく必要がある。

◇学校はオフィスや工場と比較して、二酸化炭素の排出量は少ない。そのため、子ども達への環境学習や地域へ啓蒙を考えることも大切な気がする。

◇設置する設備と、エネルギーの購入先が決まれば子どもたちのカリキュラムも決まってくる。

◇学校を拠点に市民を啓発していくのであれば、パネル等の設置で外から見てわかることや、オープンスクール・学校行事として行うのか等、方法も考えていかないとならない。

【施設整備の優先順位について】

◆ZEB 化には、効率の良い機器を取り入れていくのが確度の高い対策であると考え、アクティブデザインを積極的に行った上で、設計者のアイディアを踏まえた建築の工夫を行っていく。

◇アクティブデザインとパッシブデザインどちらも重要。コストと省エネは対比するが、優先順位を見ているとパッシブデザインよりアクティブデザインを重視しているように見える。機械よりも建築的な工夫で自然の力で省エネを図っていくことが理想であると個人的には思う。

◇災害時に電気を使わなくても涼しい等、パッシブで負荷を減らすことが大前提である。パッシブは費用対効果が低いため、設計者次第ではあるが過剰に行う必要はない。優先順位とするより目標の数値を掲げ、自由に設計してもらおうとよいと思う。通常よりも性能が高い提案を受けることになるため、かけられるコストは伝えておかないと、非現実的な案がでる恐れがある。

【環境学習について】

◆環境学習についてはカリキュラムとの連動させることが必要と考え、学校と協議を進めていこうと考えている。

◇環境学習はパネルを見せるだけで終わってしまうため、授業の中で学級毎に競わせるとか、エネルギーに触れあうことが体感できるといいと思う。

◇大きな単位の見える化があるのではなく、教室毎で可視化できる設備が必要だと思う。

◇断熱用塗料を塗っている壁とそうでない壁の熱の比較等、学習につながるような細やかなことが必要と思う。

◇直接的な関係ではないが、SDG s をポリシーとして掲げている事例も増えている。環境問題やジェンダーをテーマに関連していくこともあると思う。

◇環境学習はプログラミングとセットになると思う。現在は、子ども達が立てた仮説の経過が見えない問題がある。今のプログラミングは動かすことしかしていないため、シミュレーション学習で使うことも考えるべきだと思う。

◇学校では、子供たちがエネルギーを使っていると実感できる場が少ないため、身近なも

ので体験できるとよい。例えば、窓際から縦にスイッチが切れるように造り、晴れの日と電気の関係性を実験する。その授業により、晴れているから電気を消すということを子ども達が自立的に行っている事例もある。また、先生達からのフィードバックでは、どの程度節約ができたかわかるとより良いと意見を頂いた。

◇健康の観点から空調は重視されているため、不快とならないように室内環境を計測しながらエネルギーを検証していくことが必要である。生活の中でエネルギーを有効的に使用するプログラム開発もあるが、先生だけに委ねるのは難しい。市でプログラム開発を進め、展開できるように進めると先生達も取り掛かりやすくなると思う。

◇民間企業も学校に対して、企業 PR で環境学習を行っているので企業連携の可能性も検討してもよいと思う。

第6回宮田小学校 新校舎推進会議 会議概要			
日時	令和3年11月29日(月) 17:30～19:10	場所	宮田小学校 外国語室
配布資料	第6回宮田小学校 新校舎推進会議 別冊資料あり 宮田小学校 建替え 基本構想・基本計画		
会議概要			
次第			
1. 座長挨拶			
2. 報告			
(1)これまでの経緯について			
3. 協議			
(1)宮田小学校のデジタルトランスフォーメーションに向けた施設整備について			
(2)宮田小学校のカーボンニュートラルに向けた施設整備について			
4. 報告			
(1)今後のスケジュールについて			
【会議の概要】 ◇委員（専門会議委員及び各学校運営協議会委員） ◆教育委員会			
2. 報告			
(1)これまでの経緯について			
社会情勢の変化により、学校のデジタルトランスフォーメーションと学校のカーボンニュートラルという新たな課題の検討の必要が生じた。宮田小学校の建替えは今後の建替えモデルとなることから、より丁寧な検討が求められ、この新たな検討課題の対応についても、宮田小学校の基本構想・基本計画に反映していくことが必要となる。			
この2つの新たな検討課題について、専門家の知見を活用しながら協議を進めるため、建築計画、建築環境、教育・ICTに精通した4人の専門家と、教育委員会及び関係部署で協議する専門会議を設置し、今年度2回の会議を行った。			
また、2回の専門会議の概要について事務局より説明をした。			
3. 協議			
(1)学校のデジタルトランスフォーメーションに向けた施設整備について			
◆ICT 機器は著しく進化し先を見通すのが困難であるため、更新が容易なものを検討していく。一方、施設や空間については、容易に更新ができないため、ICT の活用による教育の変化を見据え、多様な学習スタイルに柔軟に対応できる施設整備や、家庭では体験できないことを学校で実現できる魅力ある施設整備を計画していく。			
◇学校関係者の皆様からすると、ICT の活用により学校がどのように変化するか、イメージがしにくいのではないかと思います。ICT はツールでしかなく、ICT を活用した学びが、学校運営によりどのように増幅されるかが大切である。新しい学びのために最適な教室の造り方や配置について、建築専門の先生が今までの経験を踏まえ考えてきた。カーボンニュ			

ーtralも決して華美な施設ではなく、環境のことを配慮した最先端の技術を、子ども達の学びにどのように活かすかにこだわりたいと考えている。

◇ICT 機器の導入により、机のサイズまでにも影響がおよび、今までの教室の広さでは足りなくなる。ICT 化により、子ども達が主体的に学ぶスタイルが徐々に増えてくると、普通教室、特別教室、オープンスペース等の学校全体の空間の在り方も変化してくる。PC 室や視聴覚室がより高度なメディアセンターに、図書館やそれに関連する視聴覚室等も合わせて新しい学びに変化していくこともある。

◇デジタル化は世の中で大きくとり淘汰されているが、今までのスタイルが一掃されるわけではない。ペンや紙の今までの選択肢に加えてタブレットが使えるようになり、子ども達は自分に適したものを選んで学べるようになる。また、タブレットでできることが増える中、子ども達が毎日学校に通い、友達と一緒にいるからこそできる学びを考え、空間を造っていく必要があると思う。

◇オープンスペースの使われ方の一例を紹介したい。オープンスペースのある学校で、家具や置き畳などを設置し、子ども達がどのように活動するのかについて観察調査をしている。このような場所ができるだけで、子どもは自分が一番学習しやすいスタイルを自発的に選び、騒ぐことなく学習をしている。例えば、段ボールなどで仕切ると個別のブースとなり、人気のスペースになる。自由に場所を選ぶ子どももいれば、教室で学習する子もいる。場所だけでなく、学習ツールにおいても、パソコンを使う子もいれば、紙を使う子もいる。デジタルトランスフォーメーションは、タブレットあり気と思われがちだが、子どもが学ぶ空間や、学び方を自由に選べることにあると思う。

◇学校現場で使用し、課題などはあるのか。

◇校務パソコンが無線になり自由に動かせるようになった。タブレットをクラス全員で使用する、通信容量が足りず繋がらないことが課題である。

◇同時にアクセスに対応できる回線を用意することも必要であるが、今後解決していくのか。

◆現場からの声も頂き、解消していかななくてはならない課題と認識している。原因の追究も含め対応中である。

◇ICT を活用した教育を実際に見て頂くとイメージが沸きやすい、委員の皆様は、新しい先端的な学校を視察したことはあるのか、また、これから視察する予定はあるのか。

◆全員を視察に連れていくことは難しい。次回、事務局より映像などで紹介することも検討する。

◇この状況下で、情報がまとまっている感じはしない。デジタル化の仕組みの導入や、システムの開発をしている企業から情報収集することも考えられる。

◇オープンスペースについて、好きなスタイルで学習を進めることで自由な教育が進んでいくのはよいと思うが、先生達の目が行き届かず、いじめの進行など先生達が子どもを管理する面で疑問に思う。

◇現状のように、一人の先生が35人から40人を管理する仕組みでどのようなことができるか考えなくてはならない。教室を拡張して先生が見える範囲で学習したり、学年で連携

したり、教科によっては加配教員を付けるなど、ソフト面のフォローが必要となる。

◇習熟度で分ける場合、多目的教室など普通教室以外に学習で利用できる場があると、選択肢が増え学習の幅も広がってくる。インクルーシブの視点では、学校に来られない子や、授業についてこられない子も、一緒に学ぶためにどのように対応していくかも考えると、空間にも影響してくるが、現実の範囲内で柔軟に空間を考えていく必要がある。

◇ソフトを最新にするのは大事であるが、校舎も先進的なものにするのか。私立は短期間で建替えが行われ最新設備にしていくこともある。私立の取り組みを経て、子どもの学力の伸びなどを確かめないことにはわからない。公立は建替えがなかなかできないため、その時に最新であってもすぐに古くなる。ソフトを更新して、施設は実験的なことをしない方が良いと思う。

◇奇をてらうものを造る必要はないが、教育の変化に対応できるように、先を見据えて、施設の広さは余裕を持ち、柔軟に計画しておく必要はある。簡単にまねはできないが、デジタル化が進んだ学校の事例では、机も JIS 規格より大きく、モニターもあるため、教室の広さが 1.5 倍程ある。それでも足りず廊下にラックをおいている状態である。

◇一斉型の学習は、デジタルトランスフォーメーションが進み、自宅での学習に置き換わることも考えられるが、学校に来たからこそできる学びは普遍的である。

工作する時の空間など、学校に来て体験的な学びをする際に、どのような空間とするかを見れば答えがある。専門性を高めと示してあると、すごい実験器具が導入されるイメージを持つが、小学校での学ぶ場の中に、屋外と連携した空間や、屋外でも屋根付きの学び場など、学習しやすい環境をどのように計画するのかであると思う。

◇掲げられている目指す姿は今後大切になってくるのではないかと思う。また、公立の建替えは容易にできないため、色々な使い方ができ柔軟に活用できる施設は素晴らしいと思う。

(2)学校のカーボンニュートラルに向けた施設整備について

◆二酸化炭素排出量実質ゼロを目指した施設整備・運用を目指し、その取り組みを通じて、児童への環境学習と地域への環境に対する意識の波及を目指した施設整備を計画する。

◇学校のエネルギーは、明るさや、空気の質、温度など室内環境を適正に保つために使用している。コロナの影響で真冬なのに窓を開けながら暖房をしている時期があり、対立する要素がありながらも、どのような室内環境にしたいのかを議論していければいいと思う。

◇学校はオフィスや工場に比べエネルギーの使用量が少ない。省エネにこだわるあまり学習環境がマイナスになるのは本末転倒であり、生活環境の保障を前提としたカーボンニュートラルである。

◇今回の協議でカーボンニュートラルの具体的な事例紹介があるとイメージがしやすい。事務局で検討して欲しい。

◇民間活力の利用とあるが、宮田小学校で民間企業に参画して頂くこともあるのか。

◇子ども達に出前授業をしているエネルギー系の企業もある。

◇大学教授が街づくりに携わり、校舎改修時に街づくりの経験を子ども達に話してくれたこともある。私学の時は、設計者が校舎設計の意図を説明し、その説明を4年生が3年生にすることも経験した。パネルなどは形だけのものかと思う。

◇設備は整っていても環境学習に活きていない学校もあれば、工夫していろいろなカリキュラムに取り組んでいる学校もある。単に設備を整えたからよいわけではなく、様々な仕組みを実際に子ども達が使用しながら学び、学校の省エネ効果が高まっていることもある。大学研究者や、設計者、電力会社などの企業が関わることもある。先生の負担が増えないようにサポートし、環境学習を効果的に進めていく必要がある。

◇造って終わりではなく設計者に関わってもらい学習に反映していく仕組みは必要ではないかと思う。

◇吹き抜けがあまりにも暑く、カーテンをつけて遮蔽した。使用してわかることもあり、後に修正するための予算取りも重要だと思う。

◇設計事務所はプロであり、技術的な面は任せがちであるが、適切な性能を確保するため、設計施工でも協議をしていかななくてはならない。

◇建物の持つ力は大きい。校舎が新しく、広い廊下があり、多機能に使える施設であると教師はやる気が起きると思う。

◇地域の浸水被害を軽減する雨水貯留槽を検討すると示しているが、現実問題として宮田小学校に雨水貯留槽を設置しただけで、この地域に本当に効果があるのか疑問である。

◇雨水貯留槽は宮田小学校にだけ設置したところで、地域の浸水には微弱な影響である。小さくても構わないので、宮田小学校だけではなく、この地域の他の公共施設にも雨水貯留槽を設置することが、地区の下水道の負荷を減らすことになると思う。

◇宮田小学校と大洲小学校は近くにあるため、この建替えが学校の差別化につながらないように配慮して計画をして欲しい。

4. 報告

(1)今後のスケジュールについて

本日の協議結果を踏まえ、12月の専門会議、1月に新校舎推進会議の基、所定の手続きを経て、今年度中に基本構想・基本計画の策定を行い、来年度設計に着手する予定である。

第3回宮田小学校 専門会議 会議概要			
日時	令和3年12月14日(火) 10:00～11:30	場所	第2庁舎 大会議室1
配布資料	第3回宮田小学校 専門会議		
会議概要			
次第			
1 協議			
(1)基本構想・基本計画について			
2 報告			
(1)第7回新校舎推進会議で行う事例紹介について			
【委員の意見概要】 ◇委員 ◆市長部局及び教育委員会			
<協議>			
(1)基本構想・基本計画について			
【市川市の新しい学校施設の理念について】			
◆基本構想・基本計画で定めた施設整備の内容を、今後の施設整備や教育活動に的確に繋いでいけるように、デジタルトランスフォーメーション(以下、「DX」)とカーボンニュートラル(以下、「CN」)に向けた施設整備の軸となる考え方を「市川市の新しい学校施設の理念」として示した。			
◇「学びの選択」とは、ICTの様々なツールを選択できる意味か、それとも、場所の選択かが曖昧である。今までの学校以外に様々な学習の場を提供していくようにも捉えられる。			
◆「学びの選択」とは、置き畳や個別ブースなどの場所の選択と、ICTや模造紙など道具の選択と考えている。場と道具をまとめて、学習スタイルとしている。			
◇新しい学校を造る時は、今までの学校をどこまで超えるかが、大きなポイントとなる。今までの教室を変えずに、何か新しい学び場を仕込むのか。今までの学校の造り方を変えるのか。オープンスペースや個別ブースなど、個人やグループで学習できる空間を豊富に造るのか。「学びの選択」はニュアンスにより、捉われ方が変わる。市川市はどのように考えているのか。			
◆ICTを入れることで、今までの学びが一掃されることなく、現在の形を維持しながら選択肢を増やす方向性である。			
◇「学びの選択」は、学習スタイルだけで示すと様々な疑問がある。学習環境や、ツール、スタイル、手法など、様々なものを自分に適したものを選択することであり、細かく丁寧に書いた方が伝わる。また、「学びを選択」ではなく、「選択できる学びの環境づくり」だと思う。			
◇学校施設の理念とは、基本構想・基本計画の最上流のものと捉えるが、それにしては、DXとCNに特化している。これでは、学校施設として本来あるべき理念となる、どうやって学ぶのか、どのように学ぶのかが見えてこない。上流の理念を実現するための手法と			

して「学びの選択」や「脱炭素化された施設の体感」が組み込まれるのであって、この構成では、手段が目的になっている。

◇昨年度から、基本構想・基本計画を作成した過程ではこのような考えは出てきていない。視点として、加えた方が良くと思うが、「デジタルトランスフォーメーションでは」が主語であり目的化されているが、あくまでも手段である。学校教育の個別化や多様化、インクルシブ教育の推進、子どもの環境、健康、安全を守る等、学校のあるべき姿があり、その推進に DX、CN が有効であるということである。DX や CN が目的化され、メインとなる書き方に違和感がある。

◇DX と CN のフレームが重要ではあるが、本来あるべき学校の形に対して、DX という技術的革新によりできることが増え、CN という責務が与えられた時に、どのように学校施設に反映していくかということである。特化して理念とすると、従来の学校施設と全く別のシナリオで動いていく気がする。融合の仕方が、理念として示されていくのが必要。

◇DX では、「自分に適したスタイルを選択できること」が目的ではなく、それが実現できる施設を整備すること。CN では、「生きた環境学習」の場に留まらず CN を実現するために体感型の施設を整備するとして、学習に落とし込む表現にするとわかりやすい。

【基本計画の表現について】

◆これまで議論してきた専門家の意図が、的確に計画に反映されているのか、確認を行いたい。

◇新設、既設に限らず、全国の図書室の活用方法の実績を持っている、赤木かん子氏と話の機会をもたれたらどうか。

◇視聴覚室は将来の機器への対応に加え、ICT を駆使して外部と繋がる空間や、VR、AR、安価な 3D プリンターを設置し、学びの探求ラボとなるイメージがある。例えば、教室の三面がホワイトボードになり、映像投影や、付箋ワーク、子ども達書き込めるなども考えられる。

◇環境教育の内容を決定するためにも、市川市の総合的な学習の 70 時間の内 10 時間を使用し、1 年生から 6 年生までの学習内容について、エコパネルの使用やビオトープの活用など環境学習をテーマに、コアカリキュラムが必要である。コアカリキュラムに関しては、進んでいるのか。

◆低学年から中学生に向けた段階的な学び方について、総合的な学習の時間と関連させながら、環境教育も組み込んだコアカリキュラムを指導課で作成中である。また、作成したコアカリキュラムを的確に推進するためには、総合に長けている教職員が現場に必要であると考えている。推進にあたっての成功事例を教えてください。

◇他の市町村でも進めているように、市川市でも環境教育は、コアカリキュラムに密接に関連していく必要があると思う。市川市の教職員になったことをきっかけに、教職員が環境教育の在り方を正しく理解し実践する機会を持ち、発達段階に応じて ICT の上手な使い方を指導できるように組み込んでいくことが必要。是非、協力したいので、コアカリキュラムに関しては、この会議とは別に機会を頂ければと思う。

◆そのようにしていきたいと考えている、具体的な事例等があれば教えて頂きたい。

◇10年前には、環境や国際理解など、つくば市に適したICTの活用を含んだコアカリキュラムを作成している。市川市ならではのコアカリキュラムの着手に早目に取り組んでいければと思う。

◇DX、CNをカリキュラムに位置付けるのは重要だと思う。また、地域の資源や美術館、博物館、水族館と連携しながら、教育に取り組んでいる学校もあり、DXとCNだけでなく、学校教育の中に、地域の資源や学校自身の環境要素を組み込むことも、実践的な教育を進めていくには重要だと思う。

◇子ども達が自分に適した学習スタイルは計画の肝になる。ICTを活用すれば自分に適した学習スタイルを選べるとあるが、ICTに関係なく、少人数教室やオープンスペース、多目的教室など、クラスを超えた学びの展開や、空間が重要である。学習スタイルを選択できる手段として、ICTや空間が用意されていることを加えるとよいと思う。

◇図書室については、他の空間と相互に関連付けて配置と記載されているが、具体的には、視聴覚室やPC室との関係が重要である。ICTを活用した授業、調べ学習、発表に使うなど、図書室単独では出来ないことができるような、学校の拠点となるメディアセンターを構成するなど、具体的に連携する空間について記載した方がよい。

◇近年の学校施設は、大型モニターと黒板を併用することが多い。DXの計画内には明記されているが、普通教室の計画の中にも入れたほうがよい。

◇オープンスペースも、個人学習やグループ学習、学年集会、図書コーナーの設置など、具体的な使われ方を記載した方がよい。

◇図書室には、理科室の連携も考えられる。

◇DXは、用意する設備は示してあるが、設置場所は示されていない。それぞれに適したものを用意するのか。

◆プロポーザルであり、設計者の提案によるところが大きいと思うが、普通教室は学習の拠点であるため、ICTを充実させた方がよいと考えている。

◇屋外運動場にまで、ICT機器を設置するのは難しいが、普通教室内には、市川市からの提案として示してよいと思う。

◇CNについては、省エネ、環境配慮、子どもの健康や安全など、様々なメニューが具体的に並んでいるが、CNを進める目的が弱く見える。

◇6頁の対応方針でCNに向けた施設の整備・運用として、快適な室内環境の実現とエネルギーの収支ゼロ（以下、「ZEB」）が示されている。基本計画では、この具体的な内容が示されているため、体系的に資料が整理されるとよいと思う。一方で、ZEBを目指すと言い切っているのが心配である。ZEBを使命とされた基本構想・基本計画を作成した際は、ZEBが実現できる設備配置の検討を行った。

【教職員の教え方・働き方について】

◇ICTを活用した新しい学びの在り方について、教職員が手探りで行うには負担が大きく、働き方改革にも逆行する。新たなコアカリキュラム内に、ICTの活用を強制的に組み

込み、教職員が実施しなくてはならない状態を作る。そして、コアカリキュラムを展開する時に、教職員が必然的に学んでいく形が最も成果が出ている。ただし、個人の力に左右される。同時に、データベース管理やエビデンス重視の学びを展開していくことになるため、市川市としてのデータ管理体制の整備も進める必要がある。

◇児童生徒、教職員にリテラシーがなく、スタートが上手くいないと、長い間その状態が続いてしまう。集中的にサポートする仕組みにしないとならない。

◇教員の働き方改革について、現在のように机が並ぶものでなく、家具メーカーと連携し、机のレイアウトを変えたり、フリーアドレスを導入したり、ICTだけでなく、教職員自身のワークスペースを変えていこうとしている学校もある。一般のオフィスでも、アクティビティベースワーキングという多様なワーキングスペースを用意するオフィスが増えている。職員室ではそこまでの取り組みはないようだが、打ち合わせや、コミュニケーション、テストの採点、プライベートなアクティビティ、生徒への指導などで、個人ワークスペースや共同ワークスペースを使用する様々なシチュエーションがある。日本には事例が少ないが、新しい働き方に合わせた、職員ラウンジのような空間が必要になるかと思う。日本人は真面目であり、ラウンジがあっても使われないこともある。外から見えないところに造ると重宝される。新しい職員室の環境の在り方を考えなくてはならない。

◇地域連携協働本部など、地域の方々が学校と関わるため、校長室や職員室が過去の在り方から変化しオープンな空間になっている。

◇事務所ビルでは、アクティビティベースワーキングが流行っている。一方で、休憩の取り方はあまり知見がない。一人になれる時間、物思いにふける時間が一日の中で求められることが多いというアンケート結果がある。教職員は、学校運営時は公にさらされ、心理的な緊張が途切れる空間がなく、放課後になるとようやく自分の教室に戻って、一人の作業をすることがある。オープンな空間と同時に、一人になれる空間を造ることも求められている。少なくとも具合が悪くなった時に横になれ、子ども達に見えないところで休めるのが大事かと思う。ポジティブな方向だけでなく、休憩ができる場所が大事である。また、休憩の取り方は個人の性格だけでなく、組織の文化に依存する研究の成果がでている。伝統的で強制的な雰囲気がある場所では、人前で休憩することを避けることもある。校長、教頭、同僚同士の関係に加え、一日の活動計画に休憩を取っても良いとしていかないと立派なリフレッシュコーナーを造っても使われないこともある。先程のコアカリキュラムのように、教員の働き方についても方針を決めて、トップダウンで下ろしていかないと現場も休めない。

◇学校だけでなく、一般の日本の会社員は休憩することが後ろめたい気持ちがあり、リフレッシュコーナーは、よほどの理由がないと行かない。しかし、タバコを吸う人は、そのような場所で、色々なコミュニケーションを取ることもある。会社のリフレッシュコーナーが利用されないため、活用を促す実験を行った結果、目的を明確にして言い訳できるようにすると利用されることがわかった。また、パラソルやつい立で視界を遮ったり、打ち合わせコーナーを兼ねると活用されやすい。教職員は児童にも見られているので、一般の会社より休むことに罪悪感があると思う。休憩コーナーは外から見えない場所がよい。欧

米では、堂々と日当たりのよい場所に、教職員ラウンジを造り、頻繁に集まり休憩して、コミュニケーションの活性化に役に立っている。また、リフレッシュコーナーという名前が良くないため、教職員コラボレーションルームなど名称を変えるのも重要。仕事をして、お茶を飲んでもいい、リラックスして色々なことができる、コミュニケーションの場を考える時期にある。日本で提案すると抵抗があるが、市川市が先陣を切って新しいスタッフコラボレーション施設があるといいと思う。

2 報告

◇DX に関して、タブレット授業の例を紹介している。加えて、オープンスペースと教室を関連させた使い方や、多目的教室、視聴覚室などの空間や設備について、ICT による変化が伝わると良い。

◇ICT を全面に出していくと、誤解を生じる。普通の教室で、個別学習をしていたり、アナログの寝転がり本を読む事例もある。新しい図書館の資料もあるので足しておくとう理解も進むのではないかな。

第7回宮田小学校 新校舎推進会議 会議概要			
日時	令和4年1月13日（木） 17：30～19：00	場所	宮田小学校 外国語室
配布資料	第7回宮田小学校 新校舎推進会議 別冊資料あり 宮田小学校建替え 基本構想・基本計画（案）		
会議概要			
次第			
1．座長挨拶			
2．報告			
(1)学校施設の事例紹介			
3．協議			
(1)基本構想・基本計画（案）について			
4．その他報告			
【会議の概要】 ◇委員（専門会議委員及び各学校運営協議会委員） ◆教育委員会			
2．報告			
(1)学校施設の事例紹介			
<事務局説明>			
ICT を活用した学校教育と学校施設、環境に配慮した学校施設と環境学習の取り組み、新しい職員室について事例写真を用いて新しい学校施設を紹介した。			
◇ICT の活用については、教職員のスキルと意識が重要になると思う。スキルと意識を高める工夫をしながら取り組んでもらいたい。			
◇職員室の職場環境については、他の学校現場や教育委員会も課題として意識し始めている。フリーアドレスを導入している職員室の教職員に、アンケートやインタビューを実施し、島型配置の職員室と比較した結果、ネガティブな意見はない。特に小学校の職員室は情報交換の場として使われており、積極的な会話がなくとも、飛び交う会話により情報を収集したいという声もある。一方で、集中して仕事をしたい時は、担任する教室で作業するなど、事務作業に応じて働く場所を選ぶことができるようになってきている。これはICT 環境による影響も大きいことがわかってきており、教職員のネットワークが有線しかないフリーアドレス式はうまくいかない。他にも、情報化が進むと教職員が自作した教材を、次の学年の教職員に引継ぐことが容易になり負担軽減につながる。児童と同時に教職員の働き方のデジタルトランスフォーメーション（以下「DX」。）を進めると、色々なことがスムーズにいくと思う。			
◇今までと同様に教室で前を向いて座していると一斉学習のように見えるが、実は個々が違う活動をし、多様な学びが展開されている。今までの学びに加えて、ICT を活用することで経験することや考えることが広がっていくことをご理解いただければと思う。			
◇カーボンニュートラル（以下「CN」。）は設備の導入だけでなく、結果の分析、フィード			

バックを行い、適切に維持管理することが求められていく。どの自治体もその実施主体が決まっていらないが、少なくとも学校の教職員の仕事ではないため、合わせて考え行く必要がある。

◇施設整備を教育に生かし、環境の重要性を子ども達に理解させるためには、DX と同様に、教職員の環境教育のスキルを高めていくことも大事である。

3. 協議

(1)宮田小学校建替え 基本構想・基本計画（案）について

◇CN について、ZEB などの定量的な目標は定めないのであるか。

◆エネルギーの削減量については、設計の中で検討を行うため ZEB の表現は除いた。ただし、運用よりも施設整備で多くの二酸化炭素の削減を行いたいため、カーボンニュートラルに向けての施設整備を可能な限り行い、足りない分をエネルギーの運用で補助することで施設のカーボンニュートラル化を行う。

◇予算の取得など、設計中に CN と相対する要素が出てくることもあり、高い目標を達成するには、上位計画である基本構想・基本計画で、数値を明確にする必要があると思う。

◇CN は、子供への環境学習の推進にも関わる。サステナブルな社会への転換には、CN という高い基準を設定し、その運用を維持しながら日常に学べる状況を造ることが重要であり、目指す姿だと思う。

◇設計者は数字を示さないと目指さないと。目標値を定め、その目標に向かう詳細な取り組みは、設計者に任せることで良いか。

◇自然エネルギー利用は建築形態と組み合わせなので数値が見えないが、基本構想・基本計画に記載されている省エネのメニューは一般的、汎用的な技術である。政策的には須賀内閣以降、非常に高い目標が掲げられており、既存建築物を含め二酸化炭素排出量を 51% 削減する目標である。全ての建物が基準を満たせる訳ではないため、新築であれば 60～70%削減しないと足りないぐらいだと思う。

◇令和 9 年供用開始の建物であれば、CN を目指して欲しい。

◆エネルギーの運用とは、二酸化炭素排出係数の少ないガスや電気の調達を示しており、施設整備とエネルギーの運用を合わせて、CN 化された施設を目指している。

◇運用が CN 化されたエネルギーの調達という意味であれば、一般的には施設整備の目標が決まっており、足りない分を補うこととなる。

◇避難所となる体育館は江戸川の氾濫を想定した配置や計画を行うとしているが、地下貯留槽も、江戸川の氾濫に対応できる雨水貯留槽を設けるということか。

◆大雨時にゆうゆうロードが浸水した経緯があり、その対応のため、宮田小学校に地下貯留槽を検討している。ただし、前回の会議でもご意見いただいたが、宮田小学校だけでは地域の浸水被害を賄いきれないため、他の公共施設にも設置する必要があると考えている。他の公共施設への設置や必要貯水量を踏まえたうえで、その効果を検証し設置について関係課と協議していく。

◇新しい教職員について、開放性を高め児童とのコミュニケーションを取れるようにする

ことは大切である。一方、個人情報の扱いや保管も重要である。また、先ほど専門家より紹介頂いたように、情報交換の場に職員室が使われ、作業は自分の教室で行っているように感じる。

◇教職員のリフレッシュコーナーが使われるようになるには、組織文化から変えていかなくはないと思う。すぐには難しいかもしれないが、教職員の健康増進、健康管理の観点から、そのような考え方も必要であると思う。

◇中学校では教職員が職員室にすることが多い。一方、小学校の教職員は、授業中や休み時間を常に子どもと一緒に過ごしており、職員室にいないことが多いかと思う。大きな職員室では、持てあますこともあると思う。

◇教職員コーナーを学年単位に設ける場合もあり、業間休みに職員室に戻らず授業準備ができるようになる。その場合も、テストの採点などプライベートなことは職員室で行う。また、教科毎に拠点があると教職員同士の連携が取りにくく、教職員のコミュニケーションの増進のため、いかに関わりを持たせるかも課題となっている。

◇児童との相談については、職員室に入るのは抵抗があるため、職員室の前の中間的な領域に相談スペースを設置する学校もある。

◇リラックスできる場所は子どもから見えないようにしながらも、子ども達がアクセスしやすく開放性の高い空間を用意するなど、全体の面積が限られている中、メリットデメリットを検討しながら慎重に行う必要がある。

◇ICT 機器はあくまでも学習を豊かにするツールであり使うことが目的でない。新しい宮田小学校が開校する時には、1年生から6年生の一貫した学びとして総合的な学習時間を使い、ICT の利活用を必然的にしなくてはならない学習状況を作り上げることが重要である。研修では、使いこなすまでいかないと感じている。コアカリキュラム作りを教職員と一緒に取り組んでいくことが重要。

◇教職員の研修は ICT 関係の企業との連携も考えられる。また、ICT が得意な教職員が、他の教職員に伝える体制ができるといいと思う。情報教育や環境教育につながる仕組みづくりを考えて頂ければと思う。

◆宮田小学校の建替えには、教育委員会の各部署が関わり組織横断的に進めている。情報共有しながら進めていければと思う。

◇建替えが行われないと ICT は整備されないのか。

◆一人一台のタブレットや大型提示装置は既に配備され、子ども達は日常的に使用している。

◇ICT の活用が日常的になると、収納場所の問題や机の広さ等、ICT の活用によるハード面の課題が出てくることが考えられる。新しい計画に反映していくことも大切である。

◇これまで、ワークショップや検討会で議論を重ねてきた。議論してきた仕組みが継承されないことが多い。DX、CN に限らず、施設の使い方マニュアルのような、設計者の意図が継承されていくことも重要である。